

# 講座等研究室概要



## 分子生命科学講座 分子遺伝学・エピジェネティクス分野

### 1. 研究・教育スタッフ

副島 英伸 (教授)、東元 健 (准教授)、原 聡史 (助教)、一丸 武作志 (プロジェクト助教)

### 2. 研究テーマ

#### (1) ゲノムインプリンティング

ゲノムインプリンティングはヒトを含む哺乳動物の発生に不可欠であり、インプリンティング異常により先天性疾患や癌などのさまざまな疾患が発症する。遺伝子改変マウスや培養細胞などを用いて、ゲノムインプリンティングの分子機構解明および生物学的役割を明らかにする。

#### (2) エピゲノム異常疾患の解析

エピゲノム (DNA メチル化やヒストン化学修飾などのゲノムの全体のエピジェネティックな修飾のこと) の異常によって生じるさまざまな疾患や形質について、症例、モデルマウス、培養細胞等を用いて分子遺伝学的に解析し、分子病態を明らかにする。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

分子生物学、細胞生物学、分子遺伝学、人類遺伝学、生化学、エピジェネティクスなどの知識と分子生物学的研究に必要な能力

#### (2) 技術

DNA・RNA 抽出、PCR 法、クローニング、シーケンシング、DNA メチル化解析技術、ヒストン修飾解析技術、レポータージーンアッセイ、免疫沈降法、ウエスタンブロット、細胞培養技術、遺伝子改変技術 (ゲノム編集技術)、研究用マウス飼育、遺伝子関連データベースの検索・解析

### 4. 指導方針・目標

医学を背景にした分子遺伝学的研究を自ら立案し、遂行・発展させる能力を養うことを目標とする。基本的に個人指導。グループ全員によるセミナーを通して包括的にサポートする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

副島教授：[soejimah@cc.saga-u.ac.jp](mailto:soejimah@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2260 (内線 2260)

部屋番号 2305

研究室：TEL 直通 0952-34-2264 (内線 2264)

## 分子生命科学講座 分子医化学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

出原 賢治（特任教授）、布村 聡（准教授）、南里 康弘（助教）、本田 裕子（教務員）

### 2. 研究テーマ

#### (1) アトピー性皮膚炎の痒みの機序解明

痒みはアトピー性皮膚炎患者にとって最も重大な問題である。我々は自発的に激しい痒みを起こし、アトピー性皮膚炎のモデルマウスとなる FADS マウスを確立した。このマウス、さらには痒みを伝える神経細胞株を用いて、アトピー性皮膚炎における痒みの機序の解明を目指している。

#### (2) アレルギー疾患の発症機序の解明

アトピー性皮膚炎以外に、気管支喘息、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎といったアレルギー疾患の発症機序の解明を目指している。特にアレルギー疾患の発症に重要な IL-4、IL-13 の関与を中心に遺伝子、タンパク質、細胞、モデル動物などを用いて統合的に解析を行っている。上皮細胞などの非免疫系細胞、あるいはリンパ球などの免疫系細胞に対するこれらのサイトカインの生物活性の解明と、その生理学的意義を細胞レベルあるいは動物レベルで解析を行っている。

#### (3) 炎症性疾患の発症機序の解明

炎症機序には、さまざまな免疫反応が関わっているが、それとともに免疫細胞と構成細胞との相互作用が重要となっている。強皮症、間質性肺炎などの種々の炎症疾患を対象として、その基礎となっている免疫反応と構成細胞との相互作用を解明し、これらの疾患の発症機序の解明につなげることを目指している。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

分子生物学的、細胞生物学的、生化学的、免疫学的知識

#### (2) 技術

DNA 操作、細胞培養、細胞への遺伝子導入、タンパク質の発現とその精製、タンパク質検出解析、抗体作製、モデル動物を用いた解析

### 4. 指導方針・目標

セミナーあるいはディスカッションを通じて論理的思考を身につけさせるとともに、与えられたテーマに対して多面的な取り組みを行えるよう指導を行う。

### 5. 問い合わせ・連絡先

布村准教授：[nunomura@cc.saga-u.ac.jp](mailto:nunomura@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2263（内線 2263）

部屋番号 2333

研究室：TEL 直通 0952-34-2269（内線 2269）

F A X 0952-34-2058

## 分子生命科学講座 細胞生物学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

池田 義孝（教授）、井原 秀之（准教授）、岡田 貴裕（助教）、伊東 利津（教務員）

### 2. 研究テーマ

- (1) 糖タンパク質アスパラギン結合型糖鎖の生合成  
細胞のゴルジ装置内における糖鎖のアセンブリを明らかにし、細胞のタイプや組織特異的な生合成調節機構を解析する。糖鎖生合成経路のエンジニアリングによる糖鎖改変組換え糖タンパク質の発現を行う。
- (2) 糖転移酵素の活性調節機構  
糖転移酵素の活性がタンパク質レベルでどのように制御されているかを解析する。
- (3) 糖転移酵素の構造機能相関

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識  
生化学・細胞生物学全般、糖鎖生物学、酵素学、速度論など
- (2) 技術  
タンパク質の分離精製法、組み換えタンパク質の発現、速度論的解析、化学修飾、糖鎖構造解析、論文作成など

### 4. 指導方針・目標

個々の進路に応じた柔軟な指導を行うが、生化学・分子生物学的な研究を遂行するのに必要な基礎的知識および実験手法を身につけてもらうことを最低限の目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

池田教授：[yikeda@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yikeda@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2190（内線 2190）

部屋番号 2265

研究室：TEL 直通 0952-34-2195（内線 2195）

## 分子生命科学講座 免疫学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

吉田 裕樹（教授）、三宅 靖延（准教授）、石塚 茂宜（助教）

### 2. 研究テーマ

(1) サイトカインによるリンパ球分化制御機構の解明とその治療応用

病原体の排除や癌に対する免疫に重要な免疫反応を誘導するサイトカインの役割やシグナル伝達経路を解析し、疾患との関連を探索。特に、炎症抑制作用を持つサイトカインの役割やシグナル伝達機構を明らかにし、このサイトカインを用いた炎症性疾患の新しい治療法の確立を目指す。

(2) 病原体を認識する免疫受容体の探索と機能解析

免疫細胞は、様々な受容体により感染病原体を認識することで免疫応答を引き起こす。シグレック分子などの新たな病原体認識受容体を探索して、その機能解析を行うことにより、感染病原体に対する生体防御機構を明らかにし、さらには治療標的としての可能性を探索。

(3) アポトーシスの分子機構の解析

有害な細胞や遺伝子に障害を受けた細胞は、アポトーシス（計画細胞死）と呼ばれる細胞死によって除去される。Apaf1 は内因性アポトーシス誘導経路に必須のアダプター分子である。この分子の役割を解析していくことにより、アポトーシスの分子機構を解析し、個体発生や生体の恒常性の維持におけるアポトーシスの役割を探索。また、ネクロトーシスなどの新しい細胞死との相互関係を探索。

### 3. 修得可能な知識・技術

- ・分子生物学、細胞生物学、免疫学の知識
- ・DNA 操作、細胞培養、蛋白質の発現・解析などの生化学的解析技術、マウスを用いた感染実験などの個体レベルでの免疫学的技術。フローサイトメトリーなどの細胞免疫学的技術など。

### 4. 指導方針・目標

論文セミナーやグループディスカッションを通じて、研究遂行における論理的・科学的思考力を身に付ける事を目標とする。また、与えられたテーマに対して、自ら計画立案し、ディスカッションやデータ発表などを通じて研究を遂行・発展する能力を身に付ける事を目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

吉田 教授：[yoshidah@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yoshidah@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2290（内線 2290）

部屋番号 2411

研究室：TEL 直通 0952-34-2294（内線 2294）

## 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

倉岡 晃夫（教授）、菊池 泰弘（講師）、川久保 善智（助教）

### 2. 研究テーマ

人体の構造・機能・進化を明らかにするため、以下のテーマについて研究を行っている。

#### (1) 解剖体の足部外側靭帯群を対象とした臨床解剖学的研究

足部外側靭帯群に対するメカニカルストレスは、内反捻挫や慢性足関節不安定症の要因とされる。これらの受傷機転の解明ならびに新規治療方法の開発を目指し、非接触型3Dスキャナや各種センサ類を用いた足部外側靭帯群のバリエーション分析や機能解析を実施している。

#### (2) 人類進化の解明

アフリカが起源とされるヒトおよびヒトの祖先型動物の進化を解明するため、中新世類人猿を中心に霊長類化石の復元を目指す。

#### (3) 日本人頭蓋の地域差と時代変化

日本列島や周辺地域から出土した古人骨の形態分析を通して、日本人の地域差や時代変化を明らかにし、それらを引き起こしてきた要因の解明を目指す。

#### (4) 現生霊長類の機能形態学的解析

霊長類の筋骨格系における形態と機能のマクロ的な関係を解明するために、様々な歩行様式をする霊長類種の体肢を対象に、コンパクトCTを用いて霊長類標本を撮像しコンピュータ上で三次元再構築することで、バイオメカニカルな比較分析を行う。

### 3. 修得可能な知識・技術

- ・肉眼解剖学、臨床解剖学、自然人類学、霊長類学の知識
- ・解剖技術、骨標本作製、形態計測法（三次元計測器など）、コンパクトCT（定量的X線断層撮影装置）、三次元再構築技法、古人骨復元技術、人骨鑑定法（年齢推定、性別判定、身長推定）など

### 4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な標本作製、データ解析、論文作成、プレゼンテーション法などを修得させつつ、並行して肉眼解剖学担当講座のスタッフとして即戦力となる人材養成を行うことを目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

倉岡教授：[kura@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kura@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2220（内線 2220）

部屋番号 2105

## 生体構造機能学講座 組織・神経解剖学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

城戸 瑞穂（教授）、吉本 怜子（助教）

### 2. 研究テーマ

身体は多様な細胞が集まり組織が形作られ、多彩な機能が発揮される。分子－細胞－組織－器官－個体を研究対象に応じて選択しながら、生命現象や病態を明らかにすることを目的としている。

近年、細胞増殖や分化、移動などが温度や基質硬さなどの力学的環境により調節され、代謝、幹細胞能や神経活動などを司る仕組みを解明するメカノバイオロジーの領域が発展している。私たちは、メカノセンシングを担う機械あるいは温度刺激感受性のイオンチャネルを標的として、生理機能および病態解明を目指している。

#### (1) 皮膚・粘膜の感覚とその生理機能

皮膚角化細胞や粘膜上皮細胞が、温度感受性あるいは機械刺激感受性のイオンチャネルを介して、環境変化に応じた代謝調節を行い、創傷治癒や感覚の過敏、がんなどの病態などに関わることを明らかにする。

#### (2) アレルギー疾患と感覚異常との関連機構

アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患の患者数は増加傾向にあり生活の質の低下に伴う社会的損失の解決は大きな課題である。感覚過敏が患者の生活の質を大きく低下させるだけでなく、増悪や長期的な病態につながっていることに着目し、全身の代謝と末梢組織の炎症に焦点を当て解明を目指す。

#### (3) 形態形成とメカノバイオロジー

組織形成へのメカノセンサーの機能を明らかにすることで、高齢化社会において増加している骨減少や、頻度の高い形成異常である口蓋裂などの疾患の理解を目指す。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

分子細胞生物学、組織学、神経解剖学、実験小動物解剖学、発生学などの知識と、これらの形態学的研究に必要な能力

#### (2) 技術

最近の顕微鏡技術進展を利とした超解像ライブイメージング画像取得および処理技術

その他、基本的な研究技術として、実験用遺伝子改変小動物の取扱、モデル動物作製、神経解剖学的解析、免疫組織化学、細胞生物学実験、in situ hybridization、電子顕微鏡（透過型・走査型）観察、各種光線顕微鏡（蛍光、位相差、微分干渉、暗視野等）観察及び解析、細胞培養や分子生物学的解析、定量的解析など

### 4. 指導方針・目標

研究の遂行に必要な基盤となる技術を身につけ、自ら課題を選択し、発展させることを目標とする。

マンツーマンを主とし、セミナーやグループ討論を通じて包括的に指導する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

城戸教授：[kido@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kido@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2221（内線 2221）

部屋番号 2109

研究室：TEL 直通 0952-34-2226（内線 2226）

## 生体構造機能学講座 器官・細胞生理学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

塩谷 孝夫 (助教)

## 2. 研究テーマ

心臓は、きわめて精巧に作られた血液のポンプだ。本研究室では、その正常拍動をつかさどる、興奮と収縮の分子メカニズムと、病態における機能破綻のメカニズムの解明をめざして、以下のテーマについて研究を進めている。

## (1) 心筋細胞内カルシウム動態制御機構の解明

動物心臓から単離した心筋細胞をもちいて、イオンチャネルやイオントランスポーターによる、細胞内カルシウム動態制御のメカニズムをさぐる。細胞の機能を、パッチクランプ法やカルシウムイメージングをもちいて、定量的に記録・解析する。得られた結果を、コンピューターシミュレーションをもちいて、数理モデルに統合的に再構成する。これにより、心臓の興奮と収縮の分子メカニズムを、定量的に解明する。

## (2) 細胞内カルシウム動態異常にともなう不整脈発生機序の解明

マウス疾患モデルを用いて、心筋症や心不全にともなう心筋細胞内カルシウム動態異常と、それが誘発する心室性不整脈の発生メカニズムをさぐる。パッチクランプ法・カルシウムイメージングによる機能解析や、分子生物学的手法による遺伝子・タンパクの発現解析をもちいて、心臓の機能破綻のメカニズムを解明する。また、おなじ研究手法を用いて、心筋細胞内カルシウム動態異常にともなう心房細動の発生と持続のメカニズムを解明する。

## 3. 修得可能な知識・技術

## (1) 知識・能力

心臓の生理学と病態生理学の知識、興奮性膜の生物物理学、電気生理学実験、細胞内カルシウム動態、コンピューターに関する知識を修得できる。また、科学的な思考の能力、実験とデータ解析の能力、ドキュメンテーションの能力、英語によるコミュニケーションの能力を修得できる。

## (2) 技術

パッチクランプ法の技術、カルシウムイメージングと画像データ解析、電気生理データ解析、動物心臓からの心筋細胞の単離、培養細胞発現系、コンピュータープログラミング、電子回路の設計と製作、分子生物学的手法の技術を修得できる。

## 4. 指導方針・目標

個々の興味にあった研究テーマを選定し、実験の計画と実施を通じて、研究の方法論と科学的思考力のトレーニングを指導する。また、論文セミナーとデータ発表・ディスカッションを通じて、研究のビジョン、論理的なコミュニケーションとアカデミックライティングの能力、および英語の能力を指導する。指導においては、情熱と夢をもって科学に取りくむ姿勢と、真に独創的な研究を遂行する能力を、個々の個性に応じて涵養することを目標とする。

## 5. 問い合わせ・連絡先

塩谷 助教 : [shioya@cc.saga-u.ac.jp](mailto:shioya@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2274 (内線 2274)

部屋番号 2309

生理学事務室 : TEL 直通 0952-34-2277 (内線 2277)

部屋番号 2313

## 生体構造機能学講座 生理学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

安田 浩樹（教授）、惣谷 和広（准教授）、栗原 大河（助教）

### 2. 研究テーマ

#### (1) 中枢神経系によるストレス応答と気分制御の解明

腹側被蓋野、前頭前野や海馬歯状回等、気分を制御する領域において、ストレスが神経細胞の機能を変化させてうつや不安が誘発されると報告されている。当研究室では気分を制御する領域においてストレスが機能変化を起こす分子メカニズム、さらにその機能変化が気分や行動に対する影響を、遺伝子改変マウス等を対象に主に *in vitro* 電気生理、および行動学的手法を用いて研究している。

#### (2) 慢性ストレスモデルマウスを用いた大うつ病性障害（うつ病）の基礎生物学的研究

うつ病の病態機序の解明には、疾患モデル動物を用いた解析が不可欠である。当研究室では、慢性ストレスによる疾患モデル動物を用いてうつ病の病因・病態解明を目指している。具体的には、我々が最近見出した、慢性ストレス負荷による①HPA系の亢進によって誘発される血液脳関門の機能破綻、②マウス前頭前野の活動変化に着目し、うつ病の病因・病態解明のための基礎生物学的研究を行っている。国内外の研究者（米国・Southwestern 大学、UCSF、中国・中山大、信州大、福井大、国立精神・神経医療研究センターなど）と積極的に共同研究を行っている。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識

電気生理学、神経科学、分子生物学、生化学、行動学、病理学、統計学

#### (2) 技術

スライスパッチ等の *in vitro* 電気生理、ユニット、脳波記録等の *in vivo* 電気生理学的手法  
マウス行動実験の手法、蛍光イメージング、電子顕微鏡技術、遺伝子組み換え、細胞培養  
定位脳手術手法、光遺伝学（Optogenetics）手法、蛍光免疫染色手法

### 4. 指導方針・目標

研究テーマに関連する最新の学術論文の抄読、欧米で広く読まれている神経生理学分野の教科書の輪読、各自の実験データの発表・検討などを定期的に行う予定であり、互いに啓発しあいながら勉強や研究に取り組めるようにサポートしていきたいと考えている。自分で研究計画を立て、周囲とのディスカッションや関連文献の渉猟を通じて創意工夫しながら研究を発展させる能力の獲得を目標としている。

### 5. 問い合わせ・連絡先

安田 浩樹：[yasuda@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yasuda@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2273（内線 2273）

部屋番号 2314

研究室：TEL 直通 0952-34-2275（内線 2275）

## 生体構造機能学講座 薬理学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

寺本 憲功（教授）、鬼頭 佳彦（准教授）、窪田 寿彦（助教）、山本 格士（助教）

## 2. 研究テーマ

『形態あるモノは機能を成し、機能あるモノは形態を成す』という基礎科学系の基本的思考に立脚し、電気生理学的手法やライブイメージングを主とした機能的解析法を基盤とし、さらに分子生物学的手法、遺伝子改変マウスおよび形態学的手法を積極的に導入し、統合した分子薬理学的見地から下記の研究テーマを展開している。

## (1) 低侵襲性薬物送達法を用いた新規治療法の開発

ナノ気泡と超音波を組み合わせた新規薬物送達法（ソノポレーション法）にて核酸医薬、遺伝子およびタンパク質等の外来物質を宿主細胞に低侵襲的に導入し、様々な病態の改善を目指した新規治療法の確立を行っている。

## (2) 薬理学的現象の可視化

共焦点顕微鏡、TIRF 顕微鏡および膜透過性蛍光指示薬を駆使し、解像度の優れた画像解析を行い、細胞レベルでの薬物反応を可視化し、新たな分子薬理学の展開を目指している。

## (3) イオンチャネルの制御機序の解明

様々な電気生理学的手法を用いてイオンチャネルの分子レベルでのチャネル開閉機序に関する機能的解析を行っている。さらに様々なイオンチャネル遺伝子を欠損したマウスを用い、野性型マウスの結果と比較し、ロックアウトした遺伝子からコードされるチャネルタンパク質の有無にてその生理学的役割について詳細に解析している。

## 3. 修得可能な知識・技術

## (1) 知識・能力

将来、独立した研究者になるため、指導教員とのディスカッションを通し、研究を遂行する能力、研究を持続する能力および自己問題解決能力を鍛え、個人の潜在的な優れた能力を引き出す。

## (2) 技術

機能的（電気生理学的手法・画像解析）、分子生物学および形態学的手法を修得させ、研究を統合的に進める。実験技法は日進月歩であり、必要な手法がある場合は国内外に出向させ、その修得に努める。

## 4. 指導方針・目標

一人一人の大学院生の知的興味を尊重し、個人の能力に合わせた研究目標を設定し、指導教員との1対1による個別研究指導を行う（『個の能力を重視した研究指導』）。また同時に『世界』に通じる研究者やリサーチマインドを有した臨床医を育成することを目標としている（『世界水準の知の育成』）。

## 5. 問い合わせ・連絡先

寺本教授：[noritera@cc.saga-u.ac.jp](mailto:noritera@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-3626（内線 3626）

部屋番号 2278（院生・臨床研究棟2階）

講座 URL <http://www.pharmacology.med.saga-u.ac.jp>

## 病因病態科学講座 探索病理学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

青木 茂久（教授）、西山 めぐみ（助教）、その他大学院生等

### 2. 研究テーマ

病理学は、細胞形態、組織構造を基盤にして、疾病の診断を行うことで、疾病の発病機構を研究する学問です。病理診断や病理解剖の実践にて得られる知見を基に、癌などの確定診断や疾病の治療方針、予後の予測や、新しい疾患概念の提唱を行います。さらに、分子細胞生物学的手法や動物実験を用いて、臨床各科や臨床病理学で得られた疾病や再生のメカニズムを解明することを目指しています。

当教室では、医学部附属病院や地域病院の病理診断業務を実践し、臨床病理により得られた知見を基盤にして、発病機構の解明を目指すと共に、新素材を用いた革新的医療機器を開発しています。

- (1) 微小環境が正常および癌細胞に及ぼす生物的作用の解明
- (2) 脂肪細胞、間葉系細胞による組織再生作用の解明
- (3) 新素材を用いた新規医療技術の開発
- (4) 細胞機能制御を可能とする細胞培養法の開発
- (5) 異分野融合研究

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

細胞・組織学、臨床病理学、培養学、構造生物学、分子細胞生物学、学会発表・論文作成

- (2) 技術

病理解剖法、細胞・組織解析法、組織化学、免疫組織化学、in situ hybridization、組織培養法、動物実験法、電子顕微鏡（透過型、走査型）、遺伝子および蛋白質発現解析法

### 4. 指導方針・目標

自由な討論と自発性を尊重し、独立して研究計画を立案し、仮説を検証できるよう指導します。寛容で、豊かな研究を行い、人として研究者として視野を広めるために、海外留学を推奨しています（多くの大学院生が在学中や学位取得後に、米国などに留学しています）。

### 5. 問い合わせ・連絡先

青木茂久 : aokis@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 0952-34-2231

部屋番号 2115

事務室 : TEL 直通 0952-34-2238 (内線 2253)

## 病因病態科学講座 診断病理学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

甲斐 敬太（病理部・病理診断科 准教授）、木戸 伸一（助教）、橋口 真理子（助教）ほか

### 2. 研究テーマ

病理学的側面から臨床医学に貢献することを目的とし、主に外科手術標本や病理解剖標本などの人体標本を対象として、臨床病理学的な研究を行っている。現在、以下のテーマについて研究活動を行っているが、様々な疾患・臓器に渡るテーマを随時挙げて、幅広い研究活動を行っている。

- (1) 固形癌の浸潤・転移における樹状細胞の役割とその意義の解明
  - A 胆嚢癌の外科切除検体における樹状細胞浸潤の臨床病理学的解析
  - B 胆嚢癌細胞株と末梢血単核細胞(PMBC)との共培養による、樹状細胞の分化機構の解明
  - C 喉頭癌の外科切除検体における樹状細胞浸潤の臨床病理学的解析
- (2) 剖検脳を用いたトルソー症候群に関する臨床病理学的研究
- (3) 肝・胆・膵領域の細胞診検体を用いた細胞形態解析

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

人体解剖・組織に関する知識。種々の疾患に対する病理学的知識と疾患概念。各種取り扱い規約と診療ガイドラインに関する知識。遺伝子発現と免疫組織化学に基づく病理診断・腫瘍分類と、コンパニオン診断に基づく化学療法に関する知識。がんゲノム医療に関する知識。光学顕微鏡下の組織観察能力および病理診断能力。病理解剖に関する知識。研究用標本の管理・分析に関する知識。臨床病理学的因子、病理所見の収集・解析手法。統計解析に関する知識。論文作成・投稿に関する知識など、幅広い知識・能力を学習することができる。

#### (2) 技術

光学顕微鏡用標本作成および観察技術、免疫組織化学の技術、凍結・ホルマリン固定標本からの遺伝子抽出と解析技術、Tissue Microarray 作製技術、外科切除標本の切り出し・臓器写真撮影技術、病理解剖に関する技術など、幅広い技術を習得することができる。

#### (3) 病理診断・病理解剖

病理診断の実践およびカンファレンスへの参加により、病理診断能力を養うことができる。病理解剖の実践および臨床病理カンファレンス(CPC)を通じて病理解剖能力を養うことができる。

#### (4) 資格

診断病理学分野では人体病理を中心に研究を行っているので、研究修了後は「医学博士」取得のみならず、「病理専門医」および「細胞診専門医」を目指すことも可能である。また、病理解剖の経験症例数によっては「死体解剖資格」の取得も可能である。

### 4. 指導方針・目標

研究開始当初は研究計画をしっかり練って、コーチングの姿勢で研究を進めていく。学会発表を行い、英文原著論文を投稿する過程の中で、自立した研究者の育成を目指す。

### 5. 問い合わせ・連絡先

甲斐 准教授 : [kaikeit@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kaikeit@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-3264 (内線 3264)

部屋番号 附属病院 3階 病理副部長室

事務室 : TEL 直通 0952-34-2253

## 病因病態科学講座 微生物学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

宮本 比呂志（教授）、菖蒲池 健夫（助教）

### 2. 研究テーマ

#### (1) レジオネラの病原性発現機構の解明

レジオネラは、グラム陰性の桿菌でエアロゾル感染によりヒトに急性肺炎（在郷軍人病）やインフルエンザ様の熱性疾患（ポンティアック熱）を惹起する病原性を持っている。空調冷却塔水や衛生管理の悪い循環式の温浴施設などが感染源となり、ビルや温浴施設の利用者にレジオネラ肺炎が集団発生する。本菌が病原性を発揮する上で最も重要な性質は生体防御の第一線で働くマクロファージの殺菌に抵抗して増殖することである。本菌がどのようにマクロファージの殺菌機構からエスケープして増殖するのかについて、菌側の遺伝子 (Icm/Dot) と宿主側の遺伝子 Lgnl の両側から解析を行っている。

#### (2) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の除菌法の開発

ブドウ球菌は医療従事者を介して易感染性宿主へ院内感染を起こす病因菌の一つとして重要な菌である。バイオフィーム(生物膜)を形成するメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)はカテーテルやドレーンなどの人工機材を生体内に装着する医療行為の大きな障害となっているのが現状である。現在、銀イオンを用いて本菌を除菌する方法を開発中である。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

微生物学および分子生物学などの基本的な知識の学修、最近の論文 (cell, nature, science など) の発表と問題発見・問題解決などを討論する能力を養う。

#### (2) 技術

細菌の培養と殺菌活性の測定、顕微鏡観察技術、免疫染色法、FACS、電子顕微鏡（走査型）、蛋白質の解析 (SDS 電気泳動、Western)、遺伝子の発現解析法 (RT-PCR、Northern)、DNA や RNA の調製、組み換え遺伝子の作製、遺伝子のクローニング、遺伝子の塩基配列の解析、PCR、Southern などの分子生物学的技術などを修得する。

### 4. 指導方針・目標

自発的に自ら疑問を提出し、その疑問を科学的な実験手法を用いて解決しようとする研究者の能力を伸ばすための援助をすることを指導の基本方針としている。

### 5. 問い合わせ・連絡先

宮本教授：[miyamo@cc.saga-u.ac.jp](mailto:miyamo@cc.saga-u.ac.jp)

ホームページ：<http://www.microbio.med.saga-u.ac.jp/biodefense/>

TEL 直通 0952-34-2245 (内線 2245)

部屋番号 2212 (基礎研究棟 2 階)

事務室：TEL 直通 0952-34-2253 (内線 2253)

## 社会医学講座 環境医学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

市場 正良（教授）、松本 明子（准教授）

## 2. 研究テーマ

環境化学物質の体内動態や暴露量と健康影響との量-反応（影響）関係を明らかにするために、以下のテーマについて、主に分析化学的手法を用いて研究を行っている。

- (1) 環境保健、産業保健に関する研究  
物理的、化学的、生物学的環境を定量的に評価するための評価指標の確立に関する研究。  
生活環境や労働環境において使用される主な化学物質が体内に取り込まれた場合、どのような生体変化が現れるかを解析するための研究。住宅の温熱環境と健康に関する研究。
- (2) 環境発がんのリスク評価に関する研究  
タバコ煙や排ガス中に含まれる発がん性の化学物質による体内暴露量や影響の程度を明らかにし、発がんの予知・予防を目指した研究。
- (3) 生物学的モニタリングに関する研究  
有機溶剤や鉛などの化学物質が体内に取り込まれた場合、血液や尿などの生体試料を分析して、その体内暴露量を推定するための評価手法の確立。
- (4) 遺伝子多型による量影響関係の個体差に関する研究  
環境化学物質暴露と健康影響の関係にどのような個体差があるのかを検討するための、モデル動物、もしくは疫学研究。
- (5) 生活習慣病のバイオマーカーに関する研究  
慢性炎症、ストレス、がんなどのバイオマーカーを探索し疫学研究に応用する。

## 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
ヒトの健康と環境（特に化学的環境要因）との関わりを科学的に解明するために必要な知識と、それを予防医学に活かすための能力。
- (2) 技術  
化学物質の環境中濃度や体内に取り込まれた際の生体変化を血液や尿などの生体試料を用いて定量的に評価するために必要な各種の分析技術（機器分析や一般的な分子生物学技術など）や統計的解析技術。

## 4. 指導方針・目標

私たちが精力的に取り組んでいる研究に参画し、その研究の発展に寄与できるように個別的・集団的指導を行い、その成果を「予防原則」即ち、予防医学の発展に活かすことを目標とする。

## 5. 問い合わせ・連絡先

市場 教授：[ichiba@cc.saga-u.ac.jp](mailto:ichiba@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2283（内線 2283）

部屋番号 2409

研究室：TEL 直通 0952-34-2289（内線 2289）

## 社会医学講座 予防医学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

原 めぐみ（准教授）、西田 裕一郎（講師（特定））

### 2. 研究テーマ

癌や生活習慣病の危険因子・防御因子の解明と予防対策の確立を目標とした疫学的研究と関連する実験的研究（遺伝子多型の解析など）を行っている。

(1) 日本多施設共同コホート研究（J-MICC Study ジェイミックスタディ）

生活習慣（飲酒・喫煙・食習慣・運動など）と遺伝的素因（遺伝子多型）が相互的にがんなどの生活習慣病の発生に及ぼす影響の検討、佐賀市で約1万2千人、全国で約10万人を20年間にわたって追跡するコホート研究。

(2) 身体活動と生活習慣病（肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症など）に関する研究

生活習慣病に対する運動療法に関する研究、身体活動の効果を左右する遺伝子多型の解析、高齢者の要介護予防のための運動処方と実践プログラムの作成。

(3) 各種ワクチンの有効性評価に関する研究

新型コロナワクチン、HPVワクチン、インフルエンザワクチンなど、各種ワクチン接種による免疫原性ならびに有効性に関する研究。

(4) 精神ストレスと生活習慣病（肥満症・糖尿病・心血管疾患など）に関する研究

生活習慣病に対する精神ストレスの影響の検討、精神ストレスの生活習慣病リスクを予測するバイオマーカーの探索。

### 3. 修得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

疫学、公衆衛生学、統計学などの知識と予防医学的研究に必要な能力。

(2) 技術

疫学研究の企画と実施、調査票の作成、統計解析パッケージ（SASなど）によるデータ解析、遺伝子多型の解析、肥満・身体活動量の評価、運動負荷試験、生活習慣病に対する運動療法と食事療法、健康づくり支援プログラムの作成と実践。

### 4. 指導方針・目標

健康問題に対して多面的な角度から柔軟にアプローチできる能力を修得する事を目標とし、各教員が分担して、それぞれの得意とする分野から指導を行う。

### 5. 問い合わせ・連絡先

原 准 教 授 : harameg@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 0952-34-2282 (内線 2282)

部屋番号 2406

研 究 室 : TEL 直通 0952-34-2287 (内線 2287)

## 医学教育開発部門

### 1. 研究・教育スタッフ

小田 康友（教授）、坂本 麻衣子（准教授）、福森 則男（准教授）

### 2. 研究テーマ

現代の医学教育には、国際標準に準拠しつつ地域医療の質向上へと寄与する実効的なプログラムを開発するとともに、その質を客観的な指標をもとに評価して改善へとつなげるシステム構築が求められている。

そのためには、卒業時の学修成果を明確に定め、そこへ到達できるカリキュラム設計と、学修者の到達度を客観的に測定しうる評価法が適切に配置された、成果基盤型教育へと教育課程を移行させていなければならない。医学部教育においてとりわけ重要なのは、卒業時の学修成果を明確に規定し、アクティブ・ラーニングを通して基本的な医学知識と技能、態度を修得した上で、十分な質と期間を設定した診療参加型実習において実践的能力を高め、卒後の臨床研修へとシームレスに移行していくようなカリキュラムを構築することである。当部門では、これらの教育の実質化に必要な下記の点に関し研究を行っている。

- (1) 成果基盤型教育におけるカリキュラム設計・評価に関する研究
- (2) 目的・リソースに応じたアクティブ・ラーニングの開発
- (3) 臨床技能教育とその客観的な評価法に関する研究
- (4) プロフェッショナリズム、医療倫理の教育と評価法の開発
- (5) アクティブ・ラーニング、モチベーションインタビューなど人間の行動変容に関する研究
- (6) 臨床推論の教育方略に関する教育（EBMを含む）
- (7) 診療参加型実習に必要なリソース開発・臨床能力評価法に関する教育
- (8) 医学生の学修能力を客観的に評価できる指標の開発
- (9) 教育 IR のあり方に関する研究

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) カリキュラム設計・評価に関する一般的知識
- (2) 能動的学修の方略開発・評価に関する知識と技術
- (3) 各種プログラム（プロフェッショナリズム・倫理、臨床技能、診療参加型実習等）開発・評価法
- (4) 学修者の心理測定・技能評価に関する知見

### 4. 指導方針・目標

当部門は、本学の医療教育の司令塔として実質的に機能しながら、データ収集・評価を行う。そのため教育に関する専門的知識だけでなく、学修者の学修行動や学修成果といった諸事象の背後にある構造を重ねて把握する実力を養成するとともに、将来、諸施設や診療科の教育責任者となった時に必要なリーダーシップを含めて修得できるよう指導する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

小田 教授：[oday@cc.saga-u.ac.jp](mailto:oday@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2247

地域医療科学教育研究センター

事務室：TEL 直通 0952-34-2180

## 数理解析部門（教育 IR 室） 生物統計学・生物情報学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

川口 淳（教授）

### 2. 研究テーマ

所属する研究室や進路などを決める際に、自分だけの考えで答えを出さずに、いろいろな人の意見や情報を参考にしていますか？このように、多くの情報を集めて統合し判断を行うといったプロセスは、既にして、統計学の基本を行っています。統計学はエクセルなどに記録されたデータ（測定値）から判断・評価の手助けとなる数値を算出するための解析方法を発展する学問です。医学領域においても統計学に基づく解析が必要とされており、生物統計学として国際的に研究が盛んな分野の一つとなっています。

本研究室では統計学及び情報学に基づく医学データ解析法の研究を行います。データから客観的な判断材料を導いたり、有用な情報を取り出したりするために、デザイン、集積、解析の過程において、どのような工夫が良いのかを探求します。特に近年は遺伝子データや脳画像データなどのように測定技術の発展によりさまざまな現象が数値化され、これまで目には見えなかった病気の原因や状態を評価できるようになってきました。このようなデータは今後も増える事が見込みがある一方で、情報が豊富すぎるが故に既存の方法では解析する事ができない事もありますので、そのための新しい方法が求められます。このような背景のもと、統計学を基盤にして、さらには情報学も組み込んだ新しい解析方法を開発することを研究テーマとして、解析者の立場から新規的、包括的な研究を行い生命情報の解明や生命科学の発展に寄与することを目指します。

### 3. 修得可能な知識・技術

統計学の理論全般、医学領域における統計学的解析法の知識・技術

臨床試験におけるデザイン、データ解析法

計算機及び解析ソフトウェア（R、SAS、SPSS、JMP など）を駆使した解析技術、データシミュレーション技術

機械学習法などの先進的なデータ解析技術、ビッグデータを解析できる技術、データサイエンス分野での研究

脳画像解析法、ニューロインフォマティクス、バイオインフォマティクス、多種データの融合解析

### 4. 指導方針・目標

実際の臨床研究データに既存の方法を適用して、解析上の問題を提起し効率的な解析方法を見いだしながら、既存の方法を組み合わせ、さらには新規の解析法の開発を行い、有効なデータ解析法を提案する事を目標に指導していきます。統計学は数学的な側面もありますが、それぞれのバックグラウンドに合わせて、その専門知識を必要とせずソフトウェアを駆使した斬新な解析方法を提案できるような指導もします。興味のある方には数理統計学的な研究も指導します。

### 5. 問い合わせ・連絡先

川口淳教授：[akawa@cc.saga-u.ac.jp](mailto:akawa@cc.saga-u.ac.jp)

地域医療科学教育研究センター

TEL 直通 0952-34-2202

## 数理解析部門（教育 IR 室） 医用統計物理学分野

**1. 研究・教育スタッフ**

富永 広貴（准教授）

**2. 研究テーマ**

生体は非平衡開放系であり、統計物理、数学分野で研究開発されてきた非線形科学の方法論を適用することができる事はよく知られている。我々の研究室は、物理学、統計学、情報科学の手法を駆使し、脈波、心電図、脳波などの複雑な生体時系列データに対して、非線形非平衡科学の基礎理論を用いた解析手法の開発を行っている。脈波解析の応用として最適な運動強度の指標と言われる無酸素性代謝閾値（AT）の非侵襲的検出法の開発に取り組んでいる。また、血管、血流などの生体構成物に対して、弾性体理論、流体力学の基礎理論を適用した研究を行っている。

詳細は、以下、箇条書きにて記す。

- (1) 生体に限らず様々な非線形非平衡現象を捉えるための、大きな揺らぎを捉える大偏差統計や非線形項を射影して有用な情報を取り出す射影演算子法などの理論的な研究
- (2) 理論に基づく統計計算を効率よく行うための GPGPU などの並列処理計算法の開発
- (3) 生体時系列の取得と(1)、(2)を駆使した解析
- (4) 無酸素性代謝閾値の非侵襲的検出法の開発
- (5) ICT を利用した有効な教育法の開発と教育 IR への応用の研究
- (6) 頸部圧迫と動脈の閉塞に関して、径に沿った一様な圧迫を力学理論で解明

**3. 修得可能な知識・技術**

非線形科学の基礎的な知識、統計学の基礎的な知識、物理学の基礎的な知識、コンピュータプログラミング、GPGPU などを使用した並列処理計算手法、医学において見られる非線形時系列データの統計物理的な解析手法、無酸素性代謝閾値に関する運動生理学的知見、ICT の教育への利用法など自らの興味に応じて取得できる。

**4. 指導方針・目標**

興味のあるテーマを自ら選んで、自立的に学修、情報収集し研究できる能力を培うことを目標とする。具体的には、データの取得、解析、理論モデル構築、コンピュータシミュレーションによる解析などを行い、それらの解析法の理論的な学修を通して、科学的思考法を学ぶ。

**5. 問い合わせ・連絡先**

富永准教授：[hirotaka@cc.saga-u.ac.jp](mailto:hirotaka@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2193（内線 2193）

部屋番号 1308

研究室：TEL 直通 0952-34-2193（内線 2193）

## 教育学部 健康行動学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

山津 幸司（教授）

### 2. 研究テーマ

健康行動学は、運動、食、喫煙、飲酒、睡眠、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種行動等の健康行動とヘルスアウトカムとの関係を明かにする観察疫学研究、健康行動の変容のための介入研究、健康行動の変容に影響する要因を明らかにする研究に大別される。本研究分野では、人のあらゆる行動を研究対象とし、特定の個人や集団の問題解決に役立つ研究を推進します。行動科学、運動疫学、公衆衛生学、社会疫学等を融合した学際的アプローチを学び、研究に役立てます。医療機関での研究のみならず、地域、職域、学校等のフィールドを対象とし、予防医学だけでなく、疾病の治療を補完する研究も推進します。

\* これまでの主な研究テーマ

- (1) 情報通信技術（ICT、IoT等）を活用した遠隔行動変容プログラムに関する研究
- (2) 勤労者を対象としたスマートフォンを用いたライフスタイル変容プログラムに関する研究
- (3) 高齢者の認知機能低下・フレイル・介護予防のための健康支援プログラムに関する研究
- (4) 2型糖尿病の重症化予防を目指した医療（通院治療）と生活習慣変容の連携に関する研究
- (5) 運動行動と座位行動の社会疫学研究および介入研究
- (6) 健康行動、体力と認知機能（学業成績等）の社会疫学研究

\* 今後推進したい研究テーマ

- (7) がん予防に貢献する運動行動支援・健康支援に関する研究
- (8) がん治療・再発予防に役立つ運動行動支援・健康支援に関する研究
- (9) 高齢者の受療キャパシティを高める医療と連携した健康支援に関する研究
- (10) 高齢者の災害被災時を含めた健康支援に関する研究

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 問題行動に即した行動療法の展開の方法
- (2) 対象者の特性に応じたテーラーメイド型行動変容プログラムの開発法
- (3) 行動疫学的研究法一般

### 4. 指導方針・目標

研究目的に応じて、健康行動とヘルスアウトカムに関する観察疫学研究から、情報通信技術と行動科学的手法を活用した介入研究のそれぞれの利点を考慮し指導を行う。また、既存の枠組みにとらわれず、新分野との共同研究を通じて役に立つ健康支援方法論の標準化・体系化を目指す。

### 5. 問い合わせ・連絡先

山津教授：[kyamatsu@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kyamatsu@cc.saga-u.ac.jp)

TEL直通 0952-28-8302（内線 8302）

部屋番号 教育学部5号館308号室（本庄キャンパス）

研究室：TEL直通 0952-28-8302

## 内科学講座 膠原病・リウマチ内科学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

多田 芳史（准教授）ほか

## 2. 研究テーマ

全身性エリテマトーデス、関節リウマチなどの自己免疫疾患の発症メカニズムおよび病態の解析と、患者データを用いた臨床研究を主要なテーマとしている。

## (1) 関節リウマチにおける治療薬とインターフェロン活性に関する研究

患者血清のインターフェロン活性を測定し、治療の前後での変化、治療反応性との相関などについての研究を行う。

## (2) 成人スチル病に関する臨床研究および、TLR の作用に関する研究

多施設共同研究の臨床データを用いて種々のテーマに関する要因分析を行う。

## (3) ANCA 関連血管炎に関する臨床研究

臨床データを用いて治療効果、寛解維持療法などに関する解析を行う。

## 3. 修得可能な知識・技術

## (1) 知識・能力

基礎および臨床に関連した免疫学の知識、自己免疫疾患の発症機構

## (2) 技術

フローサイトメトリーによる解析（細胞表面マーカー解析、細胞内サイトカイン解析、細胞分裂解析、アポトーシス解析、ビーズアッセイ法によるサイトカイン測定など）、細胞培養、ELISA 法、遺伝子解析（PCR、real-time PCR など）、統計解析など

## 4. 指導方針・目標

基礎的な免疫学を疾患の解析に応用できるように、臨床と基礎とを関連づけながら研究を行っていき、最終的には治療への応用を目標とする。

## 5. 問い合わせ・連絡先

多田 芳史： [taday@cc.saga-u.ac.jp](mailto:taday@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2350（内線 2350）

研究室：TEL 直通 0952-34-2367（内線 2367）

## 内科学講座 呼吸器内科学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

荒金 尚子（特任教授）ほか

### 2. 研究テーマ

- ・呼吸器悪性腫瘍に対する分子生物学的研究  
EGF 受容体の変異に代表されるような肺発がん・進展にかかわる分子生物学的な機序を解明するとともに、その知識、技術の臨床応用を行い、肺がん治療のテーラーメイド化に資する。
- ・気管支ぜんそくの重症化メカニズムの基礎研究  
自然免疫系および獲得免疫系の両面から、ぜんそくの分子病態を解明するとともに、バイオマーカーや治療標的としての臨床応用を目指す。
- ・COPD 患者の健康寿命の延長を目標とする包括的介入研究  
COPD 患者において、運動耐容能と身体活動性の評価を体系的に実施できる地域医療連携モデルを形成するとともに、その成果を科学的に評価し、地域において早期診断・早期介入を目指す。

### 3. 修得可能な知識・技術

呼吸器病学全般についての基礎的知識および臨床的知識を学ぶことができる。疾患が多彩で多臓器にまたがることが多いという呼吸器内科学の特性を生かし、普遍的な臨床診断学や臨床推論についての技術を修得することが可能である。

医療施設の連携の在り方や構築についての考え方、パスの運用、その効率の評価法、呼吸器リハビリテーションに用いる評価の実施と解釈について、知識・技能を修得することができる。

実験技術としては実験用動物を用いた *in vivo* 実験と培養細胞を用いた *in vitro* の実験に関する技術を得ることが可能であり、生理的、生化学的、病理学的、分子生物学的なアプローチ法を学ぶことが可能である。

### 4. 指導方針・目標

自身の興味があるテーマにそって、課題を設定する。それぞれのテーマごとのセミナー・ミーティングに参加し、研究・教育スタッフとの討議を毎週反復し、課題を解決するために必要な短期目標を定め、段階的に思考の形成と課題達成を推進する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

荒金特任教授：[sueokan@cc.saga-u.ac.jp](mailto:sueokan@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2356（内線 2356）

研究室：TEL 直通 0952-34-2369（内線 2369）

## 内科学講座 脳神経内科分野

## 1. 研究・教育スタッフ

小池 春樹（教授）、鈴木 耕平（助教）、井手 俊宏（助教）、吉川 正章（助教）

## 2. 研究テーマ

神経難病（パーキンソン病、筋萎縮側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症など）、認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症など）、脳血管障害および末梢神経疾患の病態解明と新規治療法の開発を主要なテーマとし、以下の研究を行っている。

- (1) 神経変性疾患の疾患修飾薬と早期診断法の開発
- (2) アミロイドシスの疾患モデル構築と治療法の開発
- (3) 家族性プリオン病の発症修飾遺伝子の解析
- (4) 神経難病の在宅ケア
- (5) 脳卒中患者と健康人における small vessel disease の臨床的意義についての検討
- (6) 佐賀県における脳卒中患者の現状解明と予防法の開発
- (7) 高齢者の自動車運転能力と認知機能との関連に関する検討
- (8) 末梢神経疾患の国際レジストリ運営とバイオマーカーの開発
- (9) 超微形態からみた末梢神経疾患の病態解明と新規治療法の開発

## 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識

基礎および臨床に関連した神経解剖、神経免疫学、神経生理学の知識

- (2) 技術

組織学的解析（各種染色、蛍光抗体法、電顕）、神経系細胞培養、遺伝子解析（遺伝子発現、クローニング、PCR、逆転写 PCR など）、ELISA 法、マウスの実験（免疫法、採血、注射、解剖など）、

## 4. 指導方針・目標

神経解剖を基礎として、病理、免疫、生理、遺伝子などを学び、エビデンスを基にした臨床研究を行っていく。

## 5. 問い合わせ・連絡先

小池 春樹：[koike@cc.saga-u.ac.jp](mailto:koike@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2358（内線 2358）

部屋番号 2449

神経内科事務室 2448

TEL 直通 0952-34-2363（内線 2363）

## 内科学講座 血液・腫瘍内科学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

木村 晋也（教授）、安藤 寿彦（准教授）、勝屋 弘雄（講師）、岡本 翔（講師）、  
佐野 晴彦（助教）

### 2. 研究テーマ

- (1) 新規分子標的薬の開発
  - a) 経口可能なメチル化阻害剤の開発（木村、安藤、岡本）
  - b) 抗がん剤としてのシクロデキストリンの開発（木村）
- (2) 造血幹細胞移植における GVHD の機序解明とその予防・治療方法の開発
  - a) 移植後新規 GVHD バイオマーカーの探索（安藤）
- (3) ABL 阻害剤の臨床研究（木村、安藤、勝屋、岡本、佐野）
- (4) 成人 T 細胞白血病に分子病態解明（勝屋、佐野）

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
臨床医学を学ぶために必要な基礎化学の基本的な知識・能力を身につける。具体的には、分子生物学、細胞生物学、生化学などの知識と、分子生物学的研究に必要な能力を学ぶ。
- (2) 技術  
DNA・RNA 抽出、PCR 法、サザンブロット、ライブラリースクリーニング、クローニング、シークエンシング、遺伝子改変技術、フローサイトメトリー、タンパク精製、免疫沈降法、ウエスタンブロット、細胞培養技術、研究用マウス飼育、遺伝子、関連データベースの検索・解析

### 4. 指導方針・目標

世界に通じる研究者を作る。研究内容は、ハイインパクトな英文一流誌に出す。大学院修了後、希望者は積極的に留学に行かせる。

### 5. 問い合わせ・連絡先

木村教授：[shkimu@cc.saga-u.ac.jp](mailto:shkimu@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2353

部屋番号 臨床研究棟 4 階 2436

研究室直通：0952-34-2366

医局 HP：<http://www.saga-hor.jp/main/>

## 内科学講座 循環器内科学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

野出 孝一（教授）、園田 信成（寄附講座教授）、山口 尊則（准教授）、  
田中 敦史（特任教授）

## 2. 研究テーマ

- (1) プラーク不安定化、再狭窄の分子機構の解明
- (2) 動脈硬化症の発症、進展の新たな予測マーカーの開発
- (3) 危険因子に対する早期介入と新たな動脈硬化治療薬の開発
- (4) 心筋リモデリングの分子機構解明とそのマーカーの開発
- (5) 生活習慣病の観点からとらえた不整脈
- (6) 心房細動脳梗塞の発症予測マーカーの開発
- (7) 多施設臨床共同研究の推進
- (8) 血管内皮細胞障害の分子機構
- (9) 心血管病モデルを用いた循環器疾患治療薬の作用機序の解明

## 3. 修得可能な知識・技術

- (1) ELISA、EIA、EPLC などにより血中マーカーの測定
- (2) フローサイトメトリーによる細胞膜表面抗原、細胞内サイトカインの検出
- (3) 細胞培養
- (4) 各種遺伝子操作（PCR、ダイレクトシーケンス、レポーター遺伝子アッセイ、etc）および分子生物学的手法一般
- (5) 冠動脈造影、血管内超音波法定量解析評価法
- (6) 血管内皮機能評価（血流依存性血管拡張反応：FMD）
- (7) 蛋白精製、電気泳動法等の蛋白学
- (8) 免疫組織染色、蛍光抗体法
- (9) 遺伝子組み換え技術を含む遺伝子工学
- (10) 病態モデル動物の作成
- (11) 分子生物学の基礎的知識・技術全般
- (12) 細胞生物学の基礎的知識・技術全般
- (13) 生化学の基礎的知識・基礎的技術
- (14) 動物操作の基礎的知識・基礎的技術

## 4. 指導方針・目標

- (1) 実際の臨床の現場を見ながら、そこで要求されていることを知り、どんなことを解明していく必要があるのかを臨床医とともに考えて研究をすすめていく
- (2) 教員、院生、実験助手の枠をこえ、互いにアイデアを出し合い、研究プロジェクトを立てていく
- (3) テーマ設定・研究計画・実験計画のサポート
- (4) 基礎医学・生物学研究者養成のサポート
- (5) 研究成果の臨床応用へ向けた企業等との共同研究の展開
- (6) 実験技術の確実な修得
- (7) 特許につながる研究をめざす
- (8) 将来研究を必ず臨床の現場に還元させる
- (9) 研究成果の国内・国際学会での発表
- (10) 研究成果の英文国際誌への発表

## 5. 問い合わせ・連絡先

野出教授：[node@cc.saga-u.ac.jp](mailto:node@cc.saga-u.ac.jp)

TEL直通 0952-34-2364（内線 2364）

部屋番号 2455

研究室：TEL直通 0952-34-2364（内線 2364）

## 内科学講座 腎臓内科学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

宮園 素明 (准教授)、福田 誠 (助教)、山崎 政虎 (助教)、池田 裕貴 (助教)、  
吉原 万貴 (特任助教)、平田 早恵 (特任助教)、野中枝里子 (特任助教)

### 2. 研究テーマ

- (1) 腸腎連関における Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup>交換輸送体の機能制御の解明  
腸管および腸内細菌叢は腎臓病の病態に相互に関与し「腸腎連関」として近年明らかになりつつある。慢性腎臓病では腸内細菌叢や腸管機能に変化しており、この変化は腸内細菌由来尿毒素、炎症反応、免疫制御などを介して腎臓病の病態に影響を及ぼす。腸管 Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup>交換輸送体阻害剤は消化管で局所的に作用しナトリウム吸収を阻害し腸のリン酸塩吸収も減少させることから腎障害動物実験モデルにおけるその作用機序の解明をおこなう。
- (2) 慢性腎臓病の重症化予防に対する研究  
レセプトデータ・健診データで蓄積された情報をもとに、慢性腎臓病重症化の予測や予防の効果判定にむけた仕組みについて検討を行う。
- (3) 慢性腎不全患者における血清亜鉛濃度と爪組織の亜鉛含有量の関連  
亜鉛の不足は慢性腎臓病患者の重症化や QOL 低下ならびに赤血球造血刺激因子製剤抵抗性に関連する因子と考えられている。慢性腎臓病患者では血清亜鉛濃度が低くなる傾向があるが爪組織の亜鉛含有量は試料採取時の体内の変動状況を反映せず、過去の亜鉛曝露量及び生体内に蓄積した亜鉛含有量を反映するため、本研究では慢性腎臓病患者に亜鉛が与える影響が体内の変動状況に応じたものか蓄積による影響かについて比較検討を行う。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識  
基礎および臨床に関連した腎臓解剖、腎臓生理学の知識。
- (2) 技術  
実験用動物を用いた *in vivo* の実験と培養細胞を用いた *in vitro* における実験技術の修得、病態モデルの作成、顕微鏡操作観察撮影技術 (光学顕微鏡、蛍光顕微鏡)、培養技術 (初代培養、継代培養、三次元細胞培養)、組織あるいは培養細胞からの RNA 抽出ならびに cDNA 合成、リアルタイム PCR の基礎原理からデータ解析

### 4. 指導方針・目標

腎臓病学全般における基礎ならびに臨床的知識を学習し、さらに研究ならびに実践の場での応用が可能な技術の修得を目指す。また、自身の疑問あるいは興味あるテーマを設定し、推論から解決に向けたアプローチを行い、実験計画の作成、実験データ処理、医学論文の書き方を修得する。定期的にリサーチミーティングを行い、研究結果の進捗状況を把握する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

宮園 素明 : [miyazono@cc.saga-u.ac.jp](mailto:miyazono@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2370 (内線 2370)

研究室 : TEL 直通 0952-34-2370 (内線 2370)

## 内科学講座 消化器内科学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

江崎 幹宏（教授）、下田 良（光学医療診療部准教授）、坂田 資尚（講師）、  
鶴岡 ななえ（特定講師）、芥川 剛至（光学医療診療部助教）、行元 崇浩（助教）、  
武富啓展（プロジェクト助教）、島村 拓弥（助教）、

### 2. 研究テーマ

消化器病学の中でも消化管に関連した疾患を中心に研究を行っている。特に以下のテーマについて重点的に取り組んでいる。

#### (1) 炎症性腸疾患に関する臨床研究

炎症性腸疾患患者に対して行っている検査や治療法の臨床的な有効性について全国あるいは九州多施設での共同検討を行っている。また、理工学部と連携し、クローン病の診断に有用なカプセル内視鏡所見の自動検出機器の開発を行なっている。

#### (2) 消化器腫瘍性疾患における内視鏡治療に関する研究

前向き研究やコホート研究を全国あるいは九州多施設で実施することで、現在施行されている消化器内視鏡を用いた検査法や治療法の妥当性を検証している。

#### (3) 消化管由来の細胞を用いた基礎研究

病理学講座と連携し、癌細胞株やラット由来の消化器系細胞を用いた培養実験を行っている。コラーゲン・ゲルを用いて間葉系細胞や脂肪組織と共培養を行い、消化器組織を再構築し、癌細胞の動態を解析している。

#### (4) 炎症性腸疾患に関する基礎研究

分子生命科学講座と連携し、マウスを用いて炎症性腸疾患モデルを作成し、腸炎における線維化の機序を中心とした解析を行なっている。

#### (5) 免疫チェックポイント阻害薬関連副作用に関する臨床研究

進行消化管癌に対する免疫チェックポイント阻害薬関連副作用の一つである大腸炎の予測に有用な、血中あるいは便中バイオマーカー、臨床的因子に関する検討を行なっている。

### 3. 修得可能な知識・技術

消化器病学の臨床的知識および画像読影法、臨床研究計画、データ処理、論文の書き方などを学ぶことが可能である。また、基礎医学とも連携することにより、病理組織学的あるいは分子生物学的なアプローチ法についても学ぶことが可能である。

### 4. 指導方針・目標

日々の臨床では一例一例を大事に診療することが大事である。また、臨床医としての資質を高めるには臨床あるいは基礎研究にも取り組むことが重要であるため、原則として5-6年目までには大学院へ進学し研究に従事可能な体制をとる。また、当該講座が取り組む研究から担当教員とともにテーマを決定し、データ集積あるいは基礎講座と連携し実験に取り組みながら知識を深めていく。研究とともに症例報告にも取り組みながら、学会発表や論文作成手法や知識を修得する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

江崎 幹宏 : [mesaki01@cc.saga-u.ac.jp](mailto:mesaki01@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-2351  
研究室 : TEL 直通 0952-34-2361  
部屋番号 2360

## 内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

高橋 宏和（特任教授）、永淵 正法（特任教授）、桑代 卓也（助教） ほか

### 2. 研究テーマ

糖尿病、内分泌、肝臓疾患、胆膵疾患の各分野および其々の疾患を合併している非アルコール性脂肪性肝疾患/非アルコール性脂肪肝炎（NAFLD/NASH）の研究を中心に臨床および基礎研究を行っている。特に糖尿病については「地域 ICT（information and communication technology）を利活用した広域連携事業」を佐賀県全体で展開し、疫学および介入研究に取り組んでいる。

- (1) ヒューマンネットワーク・IT（技術情報）を活用した糖尿病の進展抑制および糖尿病災害対策に関する臨床研究
- (2) 運動による肥満、糖尿病、非アルコール性脂肪性肝疾患改善のメカニズム解析
- (3) 非アルコール性脂肪性肝疾患における線維化、発癌メカニズムの解明
- (4) 非アルコール性脂肪性肝疾患における血中脂質と心血管疾患の関連
- (5) 肝細胞癌治療における分子生物学的メカニズム解析
- (6) ウイルス性肝疾患における予後解析
- (7) ウイルス感染糖尿病の発症に関係する遺伝子探索

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識

糖尿病・内分泌・肝疾患、胆膵疾患の基礎的知識および臨床的知識を学ぶ。臨床的には疫学研究および介入試験を行うため地域医療システム、地域医療情報システム、統計学に関する知識を修得する。また培養細胞およびマウスを用いた実験に関する分子生物学的、病理学的なアプローチ法を学ぶ。

#### (2) 技術

地域連携構築の企画と実施、地域医療情報データベース設計技術、統計解析技術、ネットワーク管理技術、細胞培養、遺伝子解析（PCR、real-time PCR、マイクロアレイ）、組織学的解析（各種染色など）、ELISA 法、マウスの実験（採血、注射、解剖など）

### 4. 指導方針・目標

糖尿病・内分泌・肝疾患、胆膵疾患を代謝ネットワークの視点から学び、教育スタッフと臨床応用可能なテーマを中心に決定し3年間で実験結果をまとめ論文および国内外の学会で積極的に報告する。研究に当たっては大学内外との共同研究を推進している。

### 5. 問い合わせ・連絡先

高橋 教授：[takahas2@cc.saga-u.ac.jp](mailto:takahas2@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-3549（内線 3549）

部屋番号 2450

研究室：TEL 直通 0952-34-2362（内線 2362）

## 内科学講座 皮膚科学分野

## 1. 研究・教育スタッフ

杉田 和成（教授）、井上 卓也（准教授）ほか

## 2. 研究テーマ

## (1) 皮膚免疫・アレルギー疾患のメカニズムに関する研究

アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患、乾癬や水疱症など免疫疾患のメカニズムについて、免疫学的、分子生物学的、皮膚病理組織学的解析から明らかにする。

## (2) 皮膚悪性腫瘍の免疫学的、形態学的研究

皮膚リンパ腫、成人 T 細胞白血病・リンパ腫等の皮膚悪性腫瘍に関して、フローサイトメトリをはじめとする免疫学的手法、形態学的技術を駆使して解析し、疾患の病態解明を目指す。

## (3) 創傷治癒に関するメカニズムの研究

創傷治癒の分子メカニズムを免疫学的・形態学的にアプローチし、明らかにする。

## (4) 重症皮膚・軟部組織感染症の臨床疫学的研究

壊死性筋膜炎など重症皮膚・軟部組織感染症に関する諸問題を疫学的、臨床疫学的視点から解決する。

## 3. 修得可能な知識・技術

## (1) 知識・能力

皮膚免疫・アレルギー疾患の病態、癌免疫、皮膚病理組織学、臨床疫学、医療統計学などの知識

## (2) 技術

フローサイトメトリ、リアルタイム PCR 法、次世代シーケンス、細胞培養法、共焦点レーザー顕微鏡、免疫組織化学法、走査型・透過型電子顕微鏡

## 4. 指導方針・目標

病態の理解や問題解決力を高めることを目的に、定期的なリサーチミーティングと担当教員とのディスカッションを行う。

## 5. 問い合わせ・連絡先

杉田教授：[sugita@cc.saga-u.ac.jp](mailto:sugita@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2352（内線 2352）

部屋番号 2443

研究室：TEL 直通 0952-34-2368（内線 2368）

## 一般・消化器外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

能城 浩和（教授）ほか

### 2. 研究テーマ

癌を主要研究テーマとして、癌の予後因子の解析から、増殖、浸潤、転移などの進展機構を分子生物学的に明らかにしつつ、特定分子を標的とした新たな治療の開発および抗癌剤の耐性機構の分子生物学的解析から合理的な化学療法確立を目指している。サブテーマとして、三次元画像解析による手術シミュレーション構築や内視鏡下手術など低侵襲治療の生体反応に対する影響評価、また内視鏡下手術における手術デバイスの開発および特性評価なども行っている。

- (1) 消化器癌のジェネテック・エピジェネテック解析を基盤とした抗癌剤個別化治療への応答  
消化器癌の悪性度は癌腫によって異なるが、また同一癌腫であってもその性質は様々である。抗癌剤への感受性も同様であり、最適な癌治療は個々の患者で異なっている。教室では、癌細胞のDNA修復・細胞周期制御遺伝子がDNAメチル化により発現を喪失し抗癌剤感受性を増強させること、さらに抗癌剤の細胞内代謝に関わる酵素群の発現量が抗癌剤効果と強い関連があることを明らかにしている。これらの基礎データをもとに患者個々に有効な抗癌剤を選択する個別化抗癌剤治療の実現を目指す。
- (2) 癌の微小環境と分子標的治療  
固形癌の特徴である腫瘍内低酸素による癌の形質変化（悪性度の増強、抗癌剤耐性獲得）に着目し、消化器癌における低酸素誘導因子の役割およびその関連遺伝子の検索と制御機構について報告してきた。今後、それらを治療ターゲットとした新規治療戦の開発（分子標的治療薬開発の可能性）を目指すとともに、新規の腫瘍内低酸素関連遺伝子の同定を進める。
- (3) 抗癌剤増強効果をもたらす新規抗癌剤の検索、開発  
消化器癌の増殖能や転移能などに関連する蛋白翻訳後修飾に着目し、それらを制御することによる悪性形質の変化を評価し、それらを治療ターゲットとした新規治療戦を探索する。
- (4) 三次元画像ソフトによる手術シミュレーションの構築  
肝切除では、実質切除のデザインや残肝ボリューム評価に応用する他、消化管手術では腫瘍支配血管の正確な同定、過不足ない切除範囲決定への応用を確立する。
- (5) 生体侵襲反応における低侵襲手術の評価

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
腫瘍学、癌の分子生物学、解剖学、病理学、外科学の知識、医学研究へのモチベーション、特性解析から仮説立案、モデル構築、結果からの考察という一連の研究を遂行する能力、医療の限界とbreak-through pointを見極める能力
- (2) 技術  
二次元、三次元細胞培養、初代培養、株細胞樹立、顕微鏡操作撮影技術（光学、位相差、蛍光、電子）、免疫組織染色、RI解析、in situ hybridization、マイクロダイセクション、ヌードマウス移植、DNA、RNA解析、アレイ解析、遺伝子導入技術、薬剤感受性試験、小動物実験、三次元画像解析

### 4. 指導方針・目標

教員は医学博士を原則としている。ほとんどが分子生物学的解析研究経験者であるため、臨床に則したtranslational researchをめざしている。研究室長のもと、通常2~4名程度の臨床大学院生と研究生が研究活動に専念している。従って、多年次の複数の専門を異にする指導が得られ、アットホームな研究環境がある。

### 5. 問い合わせ・連絡先

能城 教授：[noshiro@cc.saga-u.ac.jp](mailto:noshiro@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-2331（内線 2331）  
部屋番号 307  
研究室：TEL 直通 0952-34-2349（内線 2349）

## 胸部・心臓血管外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

蒲原 啓司 (教授)      平塚 昌文 (講師)      柚木 純二 (准教授)      伊藤 学 (講師)  
 諸隈 宏之 (助教)      陣内 宏紀 (助教)      宮原 尚文 (助教)      林 奈宜 (助教)  
 手石方 崇志 (助教)

### 2. 研究テーマ

#### (1) 医工連携による再生医療の研究

心臓・血管・心臓弁などの臓器・器官に対し、新しい細胞工学技術を駆使して再生する、いわゆる再生医療への貢献を目指しています。現在、ヒト細胞のみにて構築される小口径人工血管の臨床応用をめざした研究が展開中です。

#### (2) 人工心肺装置・補助循環装置・人工心臓の研究

人工心肺装置は心臓大血管手術において、心臓と肺の働きを代行します。また心臓移植への橋渡しとしての補助人工心臓の使用経験をもとに人工心肺や周術期補助循環装置に関する研究をおこなっています。

#### (3) 脊髄麻痺防止のための研究

当院では、脊髄を栄養する動脈を術前にCTで同定する独自の方法を開発しました。このような方法を駆使して大動脈手術に合併する脊髄麻痺の予防のための研究を行っています。

#### (4) 低侵襲手術の研究

単孔式胸腔鏡手術 (Uniportal VATS) や、ロボット補助下手術、経カテーテル的大動脈弁移植術 (TAVI: Trans-catheter aortic valve implantation) を行っています。

#### (5) 重症心不全に対する治療法に関する研究

心臓移植や人工心臓に引き続く次世代の治療法として期待されている、再生医療による重症心不全治療の開発に取り組みます。

#### (6) 気管再建に関する研究

気管ステントに関する知見を応用発展し、気管再建法を開発しました。新たな気管再建法として期待されています。

#### (7) 心臓内視鏡による正常弁動態生理、弁形成術式、自己弁温存大動脈基部置換術式の研究

手術中に心臓弁を内視鏡で観察し機能評価を行う方法を開発し、臨床で弁形成術に応用しています。

#### (8) 機械学習を用いた胸膜癒着の同定、胸部単純CTを使用し、癒着の特徴を分析させ実臨床への応用可能な機械学習プログラム作成を行っています。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力：心臓の解剖生理、循環動態生理、生体医用工学、呼吸病態生理
- (2) 技術：動物実験手術手技、細胞培養法、病理組織学的評価法、麻酔法、無菌手術操作、人工心肺装置操作法、心機能測定法、臓器灌流法

### 4. 指導方針・目標

臨床応用を常に念頭におき、かつ研究者本人の自主性を尊重した指導を行います。

### 5. 問い合わせ・連絡先

(教授) 蒲原 啓司 [kamohark@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kamohark@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2345 FAX 0952-34-2061  
 部屋番号 2356

## 泌尿器科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

野口 満 (教授)、東武 昇平 (准教授)、有働 和馬 (講師)、柿木 寛明 (講師)、川崎 麻己 (助教)

### 2. 研究テーマ

疾患の病態解明および治療への貢献をテーマに基礎研究、臨床研究を行っている。

- (1) 脂肪細胞と各種尿路生殖器細胞との相関についての研究：メタボリック症候群を含め、脂肪細胞が正常尿路細胞および癌細胞の増殖に与える影響に関する研究
- (2) 筋層非浸潤性膀胱腫瘍の再発と排尿障害の関連解析 (臨床研究)
- (3) 腎虚血再灌流での組織障害・リモデリング抑制の研究
- (4) 排尿機能に関する研究：ダウン症の排尿障害の解析と治療に関する研究
- (5) 排尿障害とうつ病との関連研究 (疫学研究および臨床研究)
- (6) 小児における尿流動態の解析
- (7) 性ホルモンと骨盤臓器脱との関連解析

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力：細胞生物学、泌尿生殖器臓器の解剖・機能、分子遺伝子学
- (2) 技術：病理学的手技、蛋白、遺伝子レベルでの解析など

### 4. 指導方針・目標

自分の疑問に対して、解決に向けたアプローチ、問題点を列挙し整理していく論理的な思考ができる研究者を育てる。研究の成果実績主義に陥ることなく、自然科学事象に対して真摯な態度で臨み、真実にたどり着くことができる研究者を育成する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

野口教授：[nogman@cc.saga-u.ac.jp](mailto:nogman@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-2327  
部屋番号 2344  
研究室：TEL 直通 0952-34-2344

## 脳神経外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

阿部 竜也（教授）、増岡 淳（准教授）ほか

### 2. 研究テーマ

- (1) 脳腫瘍における遺伝子発現解析と治療法の開発  
脳腫瘍培養細胞および臨床サンプルの遺伝子解析を行う。  
脳腫瘍関連遺伝子の転写制御機構の解明を行う。  
脳腫瘍幹細胞をターゲットとした新規治療法の開発を行う。
- (2) 脳血管障害の研究  
脳血管障害に関与する遺伝子を解析する。  
遺伝子改変マウスで脳血管障害モデルを作成し、遺伝子解析を行うとともに新規治療法の開発を目指す。  
複数の遺伝子を改変した脳血管障害病態モデルを開発する。
- (3) 新規薬剤などの投与方法の開発
- (4) 微小外科解剖に基づく手術アプローチの開発  
解剖が大変複雑な脳の手術を行うため、研究室で手術用顕微鏡下に死体標本を用いて研究する。  
3次元モデルを用いた手術法について検討する。
- (5) 脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、小児脳神経外科疾患における画像診断と治療法の検討  
頭部 MRI および CT-angiogram などを用いて、神経機能の局在診断や錐体路、視覚路などの同定や血管構築を解析する。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
脳の構造および働きに関する知識と、中枢神経系疾患に関する理解、最先端の解析法
- (2) 技術  
手術用顕微鏡の操作とそれを用いた直径 1 mm の血管吻合などのマイクロサージャリーのテクニック、組織培養、マウス・ラットを用いた実験、パラフィン切片の作製、電顕資料の作成と観察、免疫組織化学、分子生物学的実験

### 4. 指導方針・目標

各人が希望するテーマを優先させて、研究・教育をおこなう。神経解剖、組織培養、動物実験、免疫組織化学・電顕、分子生物学的実験、病態モデル、画像診断・解析などの中から、自由に選択して研究できる。国内外の研究施設との共同研究を行っており、研究留学することを勧めている。

### 5. 問い合わせ・連絡先

阿部 教授 : [abet@cc.saga-u.ac.jp](mailto:abet@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 0952-34-2346 (脳神経外科医局)  
部屋番号 2349

研究室 : TEL 直通 0952-34-2346 (内線 2346)  
(脳神経外科医局)

## 整形外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

森本 忠嗣（准教授）、河野 俊介（人工関節学講座准教授）、塚本 正紹（講師）、藤井 政徳（講師）、長嶺 里美（助教（診療講師））、松村 陽介（助教）、泉 政寛（助教）、坂井 達弥（助教）、吉原 智仁（助教）、上野 雅也（助教）、馬渡 大介（助教）、平田 寛人（助教）

### 2. 研究テーマ

「思いやりのある効率的で質の高い医療を理念とし、そのための教育と研究を行う」という理念のもと、関節外科分野の基礎研究を行っている。臨床応用を前提とした基礎研究に重きを置いている。

- (1) 抗菌作用を有した人工関節材料の開発。人工関節への bone-in-growth を促進するハイドロキシアパタイトに銀を溶射する技術を開発し、新しい人工関節素材を開発した。この新しい素材の抗菌性、生体安全性などを in vitro、in vivo の両面から検証し、現在は市販化されている。この技術の脊椎インプラントへの応用を目指して、研究を続けている。
- (2) 3次元動作解析。これまでの関節外科における術前後の評価は、診察による機能評価、患者立脚型 QOL 調査が主に行われてきた。3次元動作解析装置（Vicon®）を使用し、より精密な病態ならびに術後回復過程の評価方法の確立を目指している。
- (3) 新しい人工関節の開発。人工関節のインプラントデザインは欧米の生活様式に合わせたものであり、和式生活には必ずしも適応していない。特に、人工膝関節では正座が困難であることが問題となる。深屈曲可能な人工膝関節の開発を、FEM（有限要素法）、CAD（computer aided design）解析などによりシミュレーションを行っている。さらに、プロトタイプインプラントを作成して新鮮死体標本をもちいて実験を行い、実用化を目指している。
- (4) 臨床研究。運動器疾患における慢性疼痛・周術期疼痛に関する臨床的研究。人工股関節のインプラント設置位置と可動域の関連についての研究。人工膝関節、人工股関節手術における手術支援装置の開発。脊椎転移・化膿性脊椎炎の集学的治療。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 小動物を用いた基礎実験の基本手技
- (2) 運動器疾患に対する多面的評価方法の修得
- (3) バイオメカニクスの理解と基礎・臨床実験手技
- (4) 基礎・臨床研究のデザイン能力

### 4. 指導方針・目標

良い臨床家となるための見識を身に着けるために研究指導を行います。必要に応じて、他学部、他大学、企業とも連携して研究遂行をバックアップします。

### 5. 問い合わせ・連絡先

森本准教授：[morimot3@cc.saga-u.ac.jp](mailto:morimot3@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-3681

部屋番号 2339

TEL 直通 0952-34-2343（整形外科教室）

## 形成外科

### 1. 研究・教育スタッフ

上村 哲司（診療教授）、渡邊 英孝（助教）、中馬 隆広（助教）

### 2. 研究テーマ

#### (1) 創傷治癒および足病変の血流と血管解剖

足部の創傷治療において血流の評価とそれに基づいた治療方針の決定は必須である。従来の画像検査では評価不能な足部の微小血管解剖を研究することにより創傷治癒における血流の新たな評価法を確立する。

#### (2) マイクロサージャリートレーニングシステムの開発

形成外科の代表的手技であるマイクロサージャリーはこれまで個人の力量によって手技のバラつきが見られたが、マイクロサージャリートレーニングにおける画一的かつ段階的な教育システムを確立し優れたマイクロサージャンを養成する。

#### (3) 下肢救済医学の確立

下肢の高位切断は患者のADLを大きく低下させる。それを回避するのが「下肢救済医学」であるが、合併症も多く画一的な治療では対応が難しい。豊富な臨床症例を生かしたさまざまな臨床研究を通じて下肢救済の治療アルゴリズムを確立する。

#### (4) 新たな糖尿病足病変の診断、治療、予防学の確立

現在アジアで急増する糖尿病の合併症である糖尿病足病変に対して、複数の診療科、学部が連携した「糖尿病足病変予防戦略研究所」を設立し中心的役割を果たしている。研究所を通じて糖尿病足病変に対してさまざまなアプローチから臨床研究を行うことで、予防医学的観点からの糖尿病足病変治療の展開を目指している。

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識

臨床に関連した足部を含めた微小血管解剖、創傷治癒学に関する基礎知識、臨床研究計画とデータの処理、学会発表、科学論文作成について学ぶことが可能である。

#### (2) 技術

慢性創傷の評価診察方法の修得、手術顕微鏡の操作とマイクロサージャリーの手技の修得

### 4. 指導方針・目標

臨床の足病変（潰瘍、壊疽）の創傷治癒学を課題にして、その基礎研究を行い臨床に反映する。創傷のスペシャリストとして基礎・臨床研究を遂行する広い見識と応用力を修得させる。

### 5. 問い合わせ・連絡先

上村診療教授：[uemurat@cc.saga-u.ac.jp](mailto:uemurat@cc.saga-u.ac.jp)

TEL直通 0952-34-3680（内線 3680）

部屋番号 2332

研究室：TEL直通 0952-34-2460（内線 2460）

## リハビリテーション科

### 1. 研究・教育スタッフ

浅見 豊子（診療教授）、村田 和樹（助教）

### 2. 研究テーマ

身心機能の低下に対するリハビリテーション医療を行う上で必要な診断あるいは障害評価の方法、治療法などの確立・開発のために、身心機能の分析や解析、機械工学技術などの手法を用いたリハビリテーション医学の研究を行っている。メインテーマとしては以下のものがある。

- (1) 義肢・装具をはじめとした補装具の研究や開発
- (2) リハビリテーション医学・医療に関わる評価およびシステムの研究や開発
- (3) リハビリテーションロボットに関する工学部など他分野との共同研究および臨床応用

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

各疾患の基礎医学・リハビリテーション医学および関連分野の知識とリハビリテーション医学研究に必要な能力

- (2) 技術

リハビリテーション医学的診察法や障害評価法、理学療法技術、作業療法技術、言語聴覚療法技術、義肢装具等療法技術

### 4. 指導方針・目標

将来的にリハビリテーション医学・医療の臨床研究を遂行・発展させるための基盤を身につけることを目標としている。指導においては、リハビリテーション医療で重要なチームアプローチの一環として、医師のみならずリハビリテーション医療に関わる他職種による指導も取り入れている。

### 5. 問い合わせ・連絡先

浅見診療教授：[asamit@cc.saga-u.ac.jp](mailto:asamit@cc.saga-u.ac.jp)

TEL直通 0952-34-3630(内線 3630)

部屋 リハビリテーション科

診 察 室：TEL直通 0952-34-3285(内線 3285)

## 放射線医学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

中園 貴彦（放射線部准教授）、山口 健（放射線科講師）、江頭 秀哲（放射線科講師）ほか

### 2. 研究テーマ

疾患の画像診断、インターベンショナル・ラジオロジー（画像ガイド下治療）、放射線治療等の臨床的研究を行うとともに、装置、器具、薬剤、検査法、画像処理法および診断法、治療法について、医用工学、画像工学、情報工学的見地から研究を行っている。

- (1) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラム・PET-CTによる腫瘍の質的診断とステージング
- (2) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラムによる炎症性疾患の質的診断
- (3) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血流、臓器虚血、臓器機能の診断
- (4) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血管、骨軟部、臓器微小病変の立体的診断
- (5) 画像診断の集団検診への応用
- (6) 脳動脈瘤、喀血、肝臓癌、子宮筋腫等に対する動脈塞栓療法、動注化学療法
- (7) 経皮的血行再建術、特に大動脈瘤のステント・グラフト治療
- (8) 頭頸部腫瘍、その他に対する立体放射線照射療法を含む集学的治療
- (9) 婦人科癌、その他に対する小線源放射線療法を含む集学的治療
- (10) 医用電子画像情報の臨床応用、保管・転送、その他の活用法

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
  - ・一般解剖学、画像解剖学、機能解剖学に関する知識
  - ・造影剤、放射性医薬品の代謝経路、臨床応用法に関する知識
  - ・画像診断機器の原理、医用工学的知識、情報工学的知識
  - ・放射線の発生、物質・生体との相互作用に関する知識
- (2) 技術
  - ・画像診断機器操作、画像処理、画像診断
  - ・放射線治療機器操作、線量計算、放射線治療計画

### 4. 指導方針・目標

- ・スモール・グループ、あるいは一対一による指導
- ・研究心を持った臨床家、臨床に即した研究者の養成

### 5. 問い合わせ・連絡先

中園准教授：[nakazot@cc.saga-u.ac.jp](mailto:nakazot@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-3771  
部屋番号 2143  
研究室：TEL 直通 0952-34-2309  
F A X 0952-34-2016

## 精神医学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

溝口 義人（教授）、國武 裕（講師）、立石 洋（講師）、村川 徹（助教）

### 2. 研究テーマ

1. 伊万里市黒川町における高齢者の精神的健康に関する長期疫学研究  
地域在住の高齢者を対象に生活環境、病歴・内服歴等を聴取し、認知機能検査（MMSE、FAB など）、抑うつ自己評価（GDS など）、死生観・生きがい調査を行い、唾液および血清サンプルを採取して、頭部 MRI 撮影を実施している。高齢者のうつ病および認知症に共通する病態仮説である炎症（慢性炎症、ミクログリア）仮説、proBDNF/BDNF シグナリング仮説、HPA 系の異常、オキシトシンの関与などに着目し、高齢者の精神的健康の維持に関わる生物学的指標（バイオマーカー）を見付けることをテーマとしている。
2. 精神科の治療薬（抗うつ薬、認知症治療薬、睡眠導入剤など）の作用機序解明  
高齢者のうつ病および認知症に共通する病態仮説である炎症（慢性炎症、ミクログリア）仮説、proBDNF/BDNF シグナリング仮説などに着目し、培養ミクログリア細胞、脳血管内皮細胞およびヒトの単球から作製したミクログリア様細胞（iMG 細胞）を用い、精神科で用いる治療薬の作用機序を細胞レベルで解明する。
3. 経頭蓋磁気刺激法（rTMS）による難治性うつ病の治療についての臨床研究  
rTMS は難治性うつ病の治療に有効であるが、その作用機序を主に炎症仮説に着目して解明する。炎症関連物質など血中バイオマーカーの測定、頭部画像解析を継続し、新たに患者由来のミクログリア様細胞（iMG 細胞）を用い、細胞レベルで rTMS による抑うつ症状改善効果のメカニズムを解明することをテーマとしている。
4. せん妄の発症機序を解明するための臨床研究  
せん妄の発症機序について、主に炎症仮説に着目して解明する。
5. 持続式陽圧呼吸療法（CPAP）による抑うつ症状改善のメカニズムの探索  
睡眠時無呼吸症候群の病態および CPAP 療法の作用メカニズムについて、主に炎症仮説に着目して解明する。
6. 知的障害者の自閉症傾向とオキシトシンなどのバイオマーカーとの関連についての研究

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

精神科治療薬の薬理作用を細胞レベルで理解する上で必要な生理学、精神薬理学、免疫学などから、うつ病や認知症の病態を理解する上で必要な臨床精神医学、社会学などに至る幅広い学問に取り組み、最新の知識を習得できる。

#### (2) 技術

ELISA 法等による各種バイオマーカーの測定、ミクログリア細胞などの培養技術及び細胞内カルシウムイオン濃度測定、フローサイトメトリーによる関連分子の測定、各種心理テスト施行能力、頭部 MRI 画像解析能などの多様な技術

### 4. 指導方針・目標

精神医学分野の研究を自身で推進する際に必要な研究態度、知識や技能基盤を身につける。

### 5. 問い合わせ・連絡先

溝口教授：ymizo@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 0952-34-3600

部屋番号 2133

研究室：TEL 直通 0952-34-2304

## 産科婦人科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

横山 正俊（教授）、奥川 馨（准教授）

### 2. 研究テーマ

婦人科癌、中でも子宮頸癌の発癌から治療に至る一連の研究を行っている。

- (1) ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）による発癌過程における分子生物学的変化の検索
- (2) 発癌過程における癌抑制遺伝子、喫煙の関与の解明
- (3) 緑茶カテキン（EGCG）による子宮頸癌治療の可能性の検討
- (4) 子宮頸部異形成患者からの HPV 検出と型の同定およびその追跡調査による癌化のリスク因子の解明
- (5) 若年子宮頸癌患者と HPV およびリスク因子の検討
- (6) 子宮頸部胃型腺癌の臨床病理学的検討
- (7) 子宮頸がん検診における HPV 検査の意義
- (8) 子宮頸癌における新しい予後マーカーの検討
- (9) 子宮体癌細胞の増殖、進展における脂肪細胞の役割とその制御の解明

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

婦人科腫瘍関係では、子宮頸癌の発癌機構の理解、婦人科腫瘍の細胞診所見および病理組織像の理解

- (2) 技術

婦人科腫瘍関係では、婦人科細胞診断技術の修得、コルポスコピー診断の修得、組織培養技術の修得、分子生物学的手法の修得

### 4. 指導方針・目標

各専門分野の担当教員による指導から基本的知識・技術を修得し、自らの発想をもとにした研究へ発展させる基礎を培うとともに、女性を対象としたデータ収集を通じてインフォームドコンセントに基づいた臨床研究の進め方を体験することを目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

佐賀大学医学部産科婦人科学講座：TEL 0952-34-2319

FAX 0952-34-2057

## 小児科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

松尾 宗明（教授）ほか

### 2. 研究テーマ

小児科学講座は小児の幅広い疾患の病態に対応するためにいくつかの研究グループにわかれて診療および研究活動をしている。その中で代表的なものを紹介する。

- (1) 神経筋疾患グループは痙攣性疾患、神経筋疾患、発達障害などの病態を明らかにし、治療法を開発することを研究テーマとし、疾患特異的 iPS 細胞を用いたもやもや病の研究、熱性痙攣の病態解析、代謝性神経疾患の病態解析と治療法の開発、神経皮膚症候群に関する研究、脳炎脳症の病態解析・治療法開発、睡眠障害の病態解明等の研究を行っている。
- (2) 循環器グループは重症先天性心疾患の出生後早期発見を目的とした新生児パルスオキシメトリーの普及に向けて佐賀県内の産婦人科・小児科と協力して共同調査を行っている。また、学校検診にかかわっていることもあり、小児成人病についての疫学研究も行っている。
- (3) 腎グループは、低出生体重児の小児期慢性腎臓病をメインテーマとして、1)低出生体重児の学童期腎機能の疫学研究、2)DOHaD 説に基づく CKD 進展機序の解明、3)CKD 早期診断マーカーの開発などの研究を行っている。
- (4) 血液・腫瘍グループは乳児白血病の病態解析とその治療法の確立、臍帯血幹細胞の体外増殖法の確立と応用、自己免疫疾患における T 細胞機能解析などを研究テーマとし、骨髄末梢血の形態診断法、flow cytometry をもちいた細胞解析法、遺伝子解析法を駆使した小児の血液、腫瘍性疾患の形態、マーカー、遺伝子解析を含む診断、および血液学研究の基礎技術を修得することを目標としている。
- (5) 消化器・肝・代謝グループは、ピロリ菌感染と各種病態との関連、腸内細菌叢の変化などに関する研究を行っている。

### 3. 修得可能な知識・技術

臨床研究を行っていくうえで必要な基礎医学の知識、細胞・分子生物学的手法、疫学研究・統計手法。

### 4. 指導方針・目標

自身の興味があるテーマにそって、課題を設定する。それぞれのテーマごとのセミナー・ミーティングに参加し、研究・教育スタッフとの討議を毎週反復し、課題を解決するために必要な短期目標を定め、段階的に思考の形成と課題達成を推進する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

松尾教授：[matsuo@cc.saga-u.ac.jp](mailto:matsuo@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2311（内線 2311）

部屋番号 2231

研究室：TEL 直通 0952-34-2314（内線 2314）

## 眼科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

江内田 寛（教授）、石川 慎一郎（准教授・医療情報部と兼任）、坂井 博明（助教）、永浜 秀規（助教）ほか

### 2. 研究テーマ

トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を念頭にした日常のあるいは将来の臨床につながる研究開発の実践を目標に、共同研究を基盤に研究を遂行する。

#### (1) 眼科診断機器（高解像度光干渉断層計）の研究開発

次世代の OCT を企業との共同研究により創生する。開発された機器については医学部附属病院にて臨床研究を実施し、最終的には実用化を目指す。

#### (2) 眼科手術器機の研究開発

眼科手術に用いる器機やデバイスさらにロボティクス技術の開発を企業との共同研究により行い、臨床研究を通してその評価・改良を行い、最終的な実用化を目指す。他診療科や他学部との共同研究を含む。

#### (3) あらたな病態の解明へ向けた研究

生化学教室において確立されたモデル動物を用い、アトピー性皮膚炎に伴う眼合併症の病態解明を行う。（生化学教室への院生としての派遣）

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

- ・臨床研究の実施のための知識と能力、シーズ開発のしくみと理解
- ・倫理委員会申請を含む臨床研究の方法の修得
- ・知財構築と論文作成方法
- ・基礎教室との共同研究による眼組織学、生化学、分子生物学的研究に必要な基礎的能力

#### (2) 技術

- ・非臨床試験、特に安全性試験を念頭にした実験動物の取り扱い、免疫組織化学法、培養細胞における細胞障害性試験、生化学および分子生物学的手法
- ・臨床研究および臨床試験に必要なレギュレトリーサイエンスの概念を含み開発研究実施全般についての技術を修得する

### 4. 指導方針・目標

臨床医としての経験と発想を重視し、眼科領域における様々な研究開発を通し、科学的探究心を育成すると共に問題解決実現をはかる。

### 5. 問い合わせ・連絡先

江内田教授：[enaida@cc.saga-u.ac.jp](mailto:enaida@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2380（内線 2380）

部屋番号 2509

眼科医局：TEL 直通 0952-34-2384（内線 2384）

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

杉山 庸一郎（教授）、山内 盛泰（准教授）、峯崎 晃充（助教）、嶋崎 絵里子（助教）、佐藤 有記（助教）、石田 知也（助教）、首藤 洋行（助教）、田中 成幸（助教）

### 2. 研究テーマ

〈基礎的研究〉

- (1) 嚥下制御メカニズムと新規治療開発に向けた研究  
嚥下を制御するメカニズムを電気生理学的、組織学的に解明し、嚥下障害に対する新規治療開発を目指す研究
- (2) 頭頸部癌の浸潤・転移に関する研究  
頭頸部癌組織における癌の浸潤・転移との関連についての免疫組織化学的、生化学的研究、および腫瘍の浸潤様式による転移・予後との関連についての臨床病理学的研究
- (3) 頭頸部癌における免疫学的研究  
頭頸部癌治療に免疫学的知見を活用することを目指した、腫瘍溶解性ウイルス治療、免疫原性細胞死、高度浸潤癌における腫瘍微小環境についての研究

〈臨床的研究〉

- (1) 嚥下障害に対する新規治療法開発のための研究  
電気刺激デバイスを用いた嚥下機能改善を目的とする治療法の開発、新規治療機器の開発のための臨床研究、嚥下促通効果を及ぼす薬剤開発にむけた臨床研究
- (2) 頭頸部悪性腫瘍に対する集学的治療  
導入化学療法・Chemoradiotherapy (CRT) ・Bioradiotherapy (BRT) による臓器温存治療の臨床解析、頭頸部外科手術手技の研究、分子標的薬・免疫チェックポイント阻害剤の抗腫瘍効果に関する研究
- (3) 嚥下障害患者の動的解析と治療  
VF (video fluorography)、VE (video endoscopy) による嚥下動態の解析とその外科的治療および嚥下訓練法の研究
- (4) アレルギー性鼻炎の組織学的研究  
アレルギー性鼻炎患者の外科的治療の検討、抗アレルギー剤投与による鼻粘膜の組織学的変化についての研究
- (5) 頭頸部癌に対する予後予測バイオマーカーに関する研究  
頭頸部癌の治療方針決定の根拠となる新たなバイオマーカーを探索する

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
耳鼻咽喉科に関する解剖学、病理学および一般臨床知識、特に咽喉頭の神経機能解剖学・生理学、喉頭腫瘍学、組織培養法
- (2) 技術  
実験動物ならびにヒト摘出標本の取り扱い（切り出し・固定法・包埋・染色法・観察）、電気生理学的研究手法、各種顕微鏡観察技術、免疫組織化学法、細胞培養法、基本的分子生物学的手法

### 4. 指導方針・目標

当該研究を遂行するのに必要な最低限の基礎的技量を身につけさせる。加えて、臨床講座として将来的に臨床にも役立つ幅の広い見識と応用力を修得させる。基礎的および臨床的研究には各分野の専門の教官が直接の指導にあたり、教授がこれを統括し目標を達成させる。

## 5. 問い合わせ・連絡先

杉山教授：[yoichiro@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yoichiro@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2375 (内線 2375)

部屋番号 2516

耳鼻科医局：TEL 直通 0952-34-2379 (内線 2379)

## 歯科口腔外科学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

山下 佳雄（教授）、檀上 敦（准教授）、合島 怜央奈（講師）

### 2. 研究テーマ

顎口腔領域の様々な疾患の診断や治療、機能回復に関する基礎研究ならびに臨床的研究を行っている。

- (1) 口腔癌に対する新規治療法の開発に関する研究  
大気圧プラズマを用いた新規口腔癌治療法の開発のための基礎研究
- (2) 歯ならびに歯周組織の再生に関する基礎研究  
歯の象牙質の再生をはじめとする歯や歯周組織に関する幹細胞の同定と培養法の確立
- (3) 顎口腔機能分析  
顎口腔領域の腫瘍等を切除した患者、顎変形症患者、歯科インプラントを行った患者などの顎口腔機能の評価を様々な測定機器を使用して行い、機能の向上を図る。
- (4) 顎顔面補綴治療に関する研究  
顎顔面領域に発生する腫瘍や外傷などによって生じた欠損を顎義歯やエビテーゼを使用して治療するが、その治療法の向上に関する研究
- (5) 局所麻酔下の外科処置における不安、疼痛軽減を目的としたVR（仮想現実）の応用  
歯科恐怖症や障害者への局所麻酔下処置に用いる医療補助装置の開発。
- (6) 歯科口腔外科手術に有用なナビゲーションシステム技術の開発  
ナビゲーション手術を行うための歯科口腔外科用デバイスの開発
- (7) コンピューターを使った顎矯正手術シミュレーションシステムの開発  
顎矯正手術患者の顔面形態と骨形態の変化に関する形態的、力学的、統計学的に分析する。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力  
歯学、特に口腔外科に関する知識と診断や治療に関する技術を理解できる能力を養い、研究に応用できるようにする。
- (2) 技術  
顎顔面写真撮影技術、顎口腔機能検査機器（筋電図、咬合力、咀嚼能率、顎運動）、実験用小動物の取扱、実験手術および解剖技術、細胞単離培養技術、顕微鏡観察用標本作成技術（特に非脱灰研磨標本）、免疫組織化学法、各種光線顕微鏡（蛍光、位相差、微分干渉、暗視野等）観察技術、顕微鏡写真撮影技術、統計学的処理方法、骨形態の計測法、レーザースキャナーを用いた非接触3次元計測法、ネットワークシステムの構築技術、3次元形態の比較分析法、3次元形態の統計学的分析法、3次元形態シミュレーション技術、コンピューター画像処理、など

### 4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な基盤を身につけることを目標とする。他大学や企業のエンジニアと共同して行うシステム開発の手法について修得する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

山下教授：[yamashy2@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yamashy2@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2395（内線 2395）

研究室：TEL 直通 0952-34-2397（内線 2397）

## 麻酔・蘇生学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

坂口 嘉郎（教授）、山田 信一（准教授）、谷川 義則（助教）、中村 公秀（助教）

### 2. 研究テーマ

#### (1) インターロイキン（IL）-27に関する研究

##### ① 敗血症における IL-27 の役割

炎症促進作用と炎症抑制作用の相反する二つの作用を持つ IL-27 が敗血症でどのような働きをしているのか(増悪させるのか軽減させるのかを含めて)、LPS 腹腔内投与や CLP による敗血症モデルマウスを用いて実験。

##### ② IL-27 を産生する新規細胞の発見

IL-27 はマクロファージや樹状細胞から産生されると言われていたが、近年、マラリア感染時に特異的に認める CD4 陽性 T 細胞が IL-27 を産生し、防御免疫応答を抑制することが報告された。そこで、マクロファージや樹状細胞以外で IL-27 を産生する細胞が存在しないか、存在するのであれば、どういった作用があるのかを、IL-27p28-Venus マウス(IL-27 のサブユニットである p28 を発現すると、蛍光蛋白である Venus によって細胞が光るモデルマウス)を用いて実験。

#### (2) 術後痛に関する臨床研究

術後鎮痛管理に関して、主に超音波ガイド下末梢神経ブロックの有用性について研究を行っている。肺外科手術後の疼痛管理に関して持続浸潤麻酔の有効性に関する研究を行っている。

#### (3) 周術期の血液凝固機構に関する臨床研究

侵襲の大きい心臓大血管周術期における血液凝固異常の病態について ROTEM および TEG を用いて解明する。

#### (4) 腹臥位鏡視下食道切除術における呼吸管理に関する臨床研究

腹臥位鏡視下食道切除術の呼吸メカニクス変化を解析し、至適な駆動圧および PEEP 値を検討する。

#### (5) 腹腔内感染性 DIC に対する遺伝子組み換えトロンボモジュリン $\alpha$ の用量に関する検討

#### (6) 慢性疼痛患者に対する長期オピオイドの影響について

長期にオピオイド鎮痛薬を使用している患者の免疫能に関して、血液データや臨床心理データなどを用いて解析を行っていく。

#### (7) 高周波パルス治療に関する臨床研究

神経根への高周波パルス治療が、電気生理学的神経機能に及ぼす影響に関して、治療の改善度に相関するかどうか解析を行う。

#### (8) プラズマ波を用いた椎間板蒸散に関する臨床研究

椎間板ヘルニアに対する治療としてプラズマを用いた椎間板蒸散法を行った場合に、椎間板内の温度上昇がどの程度まで進むのかを分析し、明らかにする。

### 3. 修得可能な知識・技術

麻酔生理学、疼痛制御機構

神経生理学、行動生理学、電気生理学、免疫組織化学

統計学

#### 4. 指導方針・目標

生理学的、組織学的に周術期の病態、麻酔薬の生理学、疼痛制御機構を研究し、臨床へ応用することができることを目標とする。臨床上の疑問を大切に、仮説を科学的に証明する研究手法を身につける。

#### 5. 問い合わせ・連絡先

麻酔・蘇生学

教授 坂口嘉郎 yoshiro@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 0952-34-2320

## 救急医学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

阪本 雄一郎（救急医学講座教授）、三池 徹（高度救命救急センター 副センター長・講師）

### 2. 研究テーマ

救急医学分野のみならず様々な領域における臨床および基礎研究を行っている。

#### (1) 重症患者における凝固特性の解明

敗血症性ショックや多発外傷、心肺停止患者などの重症病態では、生体内でドラスティックな凝固特性の変化が認められる。これら凝固特性の変化を捉えることが可能な point of care 機器を複数有する当講座では、重症患者における凝固特性データを多数集積している。集積されたデータに統計学的な処理を加えることで、病勢や重症度に応じた凝固特性の変化を解明する。

#### (2) 敗血症治療に対する治療法の効果判定

敗血症治療の解明のため豚やラットを用いた動物実験を積極的に行っている。実験効率をあげる為に研究協力機関である酪農学園大学および鹿児島大学獣医学部との共同研究を行っており、既に豚の重症敗血症モデルは作成済みである。

#### (3) 重症頭部外傷モデルにおける凝固特性の変化

頭部外傷の際には脳組織因子の影響により凝固障害が発生する。凝固障害が発生する要因や治療に関しては不明な点も多いため、当講座では日本大学工学部理工学部との共同実験により、兎頭部外傷モデルを独自に開発した実験器で行っている。凝固障害が出現する動物モデルの作成は既に開始されており、今後は防衛医大と慶應大学が開発している人工血小板の効果を判定する研究などを計画している。

#### (4) AI による様々な予測モデルの開発

人工知能にはいくつかの種類が存在するが、当講座では医療分野に当てはまりが良いとされるベイジアンネットワークを保有している。ベイジアンネットワークの特徴である、有向非巡回グラフによるモデルの構築により、疾患の重症度予測や、災害時における被災者の行動予測などの研究を行なっている。研究の際には産業技術総合研究所の職員による助言も得られるため、臨床領域と工学領域を組み合わせた人工知能の研究を行うことが出来る。

### 3. 修得可能な知識・技術

救急疾患を中心とした急性期の病態や治療、さらには人工知能などを網羅した包括的な基礎的および臨床的知識の修得ができる。基礎実験を計画し実験データの解析処理、物事の論理的解釈能力、科学論文（殊に英文）の書き方等を学ぶことが可能である。技術としては小動物から大動物までの動物の扱い方と、静脈注射、カテーテル挿入、各種検体採取などの一般的な手技、in vitro の実験に関する各種技術を修得できる。

### 4. 問い合わせ・連絡先

救命救急センター医師控室：TEL 直通 0952-34-3160

## 国際医療学講座 国際医療・臨床感染症学分野

### 1. 研究・教育スタッフ

青木 洋介（附属病院感染制御部の診療スタッフが加わる）

### 2. 研究テーマ

医療関連感染症の診断と治療に関する研究

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 臨床推論を行う力
- (2) 感染症の診断および治療の質向上を目的とする臨床研究の手法
- (3) 診断の定量的確率を定める臨床疫学的研究手法

### 4. 指導方針・目標

指導方針：実臨床の質改善に直結する命題を研究対象とする

目標：感染症診療の指導および臨床研究を遂行することのできる人材を育成する

### 5. 問い合わせ・連絡先

青木洋介：[aokiy3@cc.saga-u.ac.jp](mailto:aokiy3@cc.saga-u.ac.jp)

（内線 2184）

## 臨床検査医学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

末岡 榮三朗(教授)、佐藤 明美(助教)、中村 秀明(輸血部 助教)

### 2. 研究テーマ

癌を主要研究テーマとして、癌の発生機序、癌の増殖、浸潤、転移などの進展機構を分子生物学的に明らかにしつつ、特定分子を標的とした新たな診断・治療の開発をめざしている。

#### (1) 患者由来検体を用いた研究

- ・患者由来腫瘍検体の保存法の確立
- ・患者由来腫瘍検体を用いたがんモデル確立および薬剤感受性試験の個別化
- ・3次元がん細胞培養（CTOS法）を用いたがんの診断・治療に関する研究

#### (2) 成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)についての研究

- ・成人T細胞白血病・リンパ腫の発症予測法ならびに新規治療法開発
- ・成人T細胞白血病・リンパ腫の病期の進展や発症機序の解明
- ・ATL細胞特異的に発現する遺伝子群の網羅的解析とその機能解析

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

臨床医学を学ぶために必要な基礎化学の基本的な知識・能力を身につける。

具体的には、腫瘍学、分子生物学、細胞生物学、生化学などの知識と、分子生物学的研究に必要な能力を学ぶ。

#### (2) 技術

DNA・RNA抽出、PCR法、クローニング、シーケンシング、遺伝子改変技術（ゲノム編集技術）、フローサイトメトリー、タンパク精製、免疫沈降法、ウエスタンブロット、細胞培養技術、薬剤感受性試験、動物実験、遺伝子、関連データベースの検索・解析など

### 4. 指導方針・目標

研究遂行に必要な論理的・科学的思考力を身につけさせるとともに、与えられたテーマに対して多面的な取り組みを行えるよう指導を行う。

また、定期的に研究ミーティングを実施し、計画立案、進捗状況の報告、データ発表およびディスカッションなどを通じて研究を遂行・発展する能力を身に付ける事を目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

末岡教授：[sueokae@cc.saga-u.ac.jp](mailto:sueokae@cc.saga-u.ac.jp)

研究室：TEL：0952-34-3242

## 再生医学研究センター 臓器再生医工学部門

### 1. 研究・教育スタッフ

中山 功一（教授）、村田 大紀（助教）

### 2. 研究テーマ

本部門の研究目的は、再生医療および創薬研究に資する臓器・組織を作製することである。その手段として我々は、医工連携が非常に重要であると考えており、医学と工学の融合を自らの手で実現し、臓器再生や創薬への応用を目指して、日々の研究・開発に取り組んでいる。

現在の再生医療分野の研究では、立体的な移植体を作製するために、細胞が接着する土台となる人工足場材料を用いる方法が主流となっている。一方我々は、人工の細胞足場等を一切使用することなく、細胞のみを立体的に構築する方法について、以前から検討を行ってきた。本部門の設置に先立ち、あらかじめ任意に設計した3Dデザインを基に、専用の剣山に細胞凝集塊を自動で配置することが可能な装置、バイオ3Dプリンタ（Regenova®、渋谷工業社製）を独自に開発した。この装置を用いることにより、3次元的な任意の形状に細胞を配置することが可能となり、人工足場を用いることなく外科的に移植可能な臓器・組織の作製に、取り組むことが出来るようになった。

これまでに当該部門では、血管や心臓といった組織・臓器の再建を目指した細胞構造体を作製することに成功しており、特に血管として用いる細胞構造体については、動物実験においても血管を再建した成果を収め、既に臨床の段階へと研究が進んでいる。また現在では、心臓、関節軟骨、腱・靭帯の再建を目的とした研究に力を入れており、その他に長管骨や子宮の再建を目指した動物実験にも取り組んでいる。さらに、心臓、肝臓、横隔膜、膀胱、気管、食道、腱・靭帯、末梢神経の再建についても、多くの国内・外の研究機関と共同で精力的に取り組んでいる。既に、上記の再建に向けた移植可能な細胞構造体の作製にも成功しており、実験動物を用いた有効性試験についても優良な成果を収めている。

バイオ3Dプリンタを用いて細胞のみの構造体を作製する取り組みは現在、多種多様な臓器・組織を効率的に再建する技術として大きな期待を寄せられているが、まだまだ力を尽くすべき課題は山積している。そのため、臓器再生医工学を基礎から修得し、また再生医学と創薬研究の最先端を実践的に学びながら、当該部門の一員として我々と一緒に研究に取り組める方を心から待ち望んでいる。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 細胞生物学、Computer-Aided Design (CAD)、プログラミング、再生医学、動物実験学の知識
- (2) 細胞・組織培養、タンパク質検出、動物移植実験、組織学的検索、画像解析に関する技術

### 4. 指導方針・目標

細胞培養、バイオ3Dプリンタ、3Dプリンタ、およびプログラミングを組み合わせた臓器再生医工学を基礎から学び、そこで修得した知識と技術を基にして、次世代の再生医療と創薬に資する技術の開発に向けた、新たなシーズを自ら思（試）考し、動物実験を通して概念を実証する力を身に付ける。

### 5. 問い合わせ・連絡先

中山教授：[nakayama@me.saga-u.ac.jp](mailto:nakayama@me.saga-u.ac.jp)

事務室：TEL 直通 0952-28-8480（内線 8480）

部屋番号 理工学部2号館3階（308）

## 総合分析実験センター 生物資源開発部門

(実験動物学、発生工学分野)

### 1. 研究・教育スタッフ

北嶋 修司 (准教授)、松久 葉一 (助教)

### 2. 研究テーマ

当部門では、発生工学、生殖工学といった手法を用いて、ヒト疾患モデル動物としての遺伝子改変ウサギの開発に関する研究を中心に行っています。疾患モデル動物とは、「人の病気と同一、もしくは類似の病態を持った動物」であり、医学研究において、病態解明、診断法の確立、治療法の開発といった研究に非常に重要な役割を果たしています。特に、ウサギはヒトと脂質代謝系が類似していることから脂質代謝異常、動脈硬化の研究分野でその有用性が注目されています。当部門では、これまでに作出した遺伝子改変ウサギを用いて、実際に動脈硬化や肥満といった生活習慣病の病態解析などの研究に寄与してきました。近年では、遺伝子改変ウサギの開発だけではなく、これら遺伝子改変ウサギを研究資源として保存するために、ウサギ精子や胚による凍結保存に関する研究も行っています。

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 実験動物学、発生工学および生殖工学に関する知識
- (2) 実験動物の取扱い、ウサギ精子および胚の操作法、遺伝子解析技術、タンパク解析技術

### 4. 指導方針・目標

動物福祉に配慮した実験動物の取扱いならびに法律、規則等に則った動物実験を理解し、疾患モデル動物開発のための発生工学、生殖工学的手法等の修得を目標とする。

### 5. 問い合わせ・連絡先

北嶋准教授：[kitaajims@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kitaajims@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2430 (内線 2430)

部屋番号 総合分析実験センター

生物資源開発部門

(動物実験施設) 2階教員室 1

事務室：TEL 直通 0952-34-2431 (内線 2431)

## 総合診療部

### 1. 研究・教育スタッフ

総合診療部：多胡 雅毅（教授）、藤原 元嗣（講師）、相原 秀俊（講師（特定））、  
香月 尚子（助教）、大石 透（助教）、牧尾 成二郎（病院助教）

医師育成・定着支援センター：徳島 圭宜（特任准教授）、徳島 緑（特任助教）

地域医療科学教育研究センター：山下 駿（特任准教授）

### 2. 研究テーマ

- (1) 症状・身体所見の有用性についての研究  
外来初診患者の腹痛の発症様式・部位と診断の関連  
高齢救急搬送患者の予後を予測するモデルの開発
- (2) 疾患の重症化や発症予測についての研究  
院内転倒/転倒傷害を予測するモデルの開発と評価、予防介入に関する研究  
熱源不明患者の感染性心内膜炎を予測するモデルの開発  
高フェリチン血症に関する研究
- (3) 医学教育とその効果に関する研究  
医学科 6 年生に対する地域医療実習による教育効果に関する研究  
学生の母校愛着度と初期研修をする病院選択の関連
- (4) 病院総合診療医の役割を科学する  
二次医療機関における総合診療医の役割  
病院総合診療医が診断する感染性心内膜炎の特徴  
病院総合診療医が新興感染症流行で果たす役割
- (5) 地域包括ケアシステムに関する研究  
心不全入院患者に対する退院後の IoT を用いた在宅見守りシステムの効果の検証  
認知症ケア専用病床の効果の検証  
医療資源が少ない地域における在宅療養/在宅死の希望調査  
自宅へ退院する患者の特徴と入院患者の自宅退院への障壁の解明
- (6) 希少疾患に対する診断戦略に関する研究  
非特異的腹痛と急性肝性ポルフィリン症  
原因不明貧血と後天性 Von Willebrand 病

### 3. 修得可能な知識・技術

#### (1) 知識・能力

総合医療学（臨床疫学、保健医療行動科学、診断学、公衆衛生学、予防医学、医療社会学、老年医学、医療安全学、医療情報学）、総合診療学（地域包括医療（プライマリ・ケア）、家庭医療、一般内科学、医療の安全と質の向上）、医学教育学（教育社会学、英語教育学）、研究デザインと統計解析に関する基本知識（記述統計学、多変量解析、予測モデルの開発と検証）

#### (2) 技術

研究実践法、成果発信法、批判的論文解釈法、社会調査法、成人教育技法、統計解析法

### 4. 指導方針・目標

個人の関心を尊重し、テーマ選択や研究を行う。研究を理解・遂行するために必要な知識と技術と、情報を科学的吟味に基づいて解釈し、臨床に適用する力を養う。海外での調査・研究活動も積極的に奨励する。

### 5. 問い合わせ・連絡先

総合診療部医局事務：北病棟 2 階北

TEL 直通 0952-34-3238

## 薬剤部

### 1. 研究・教育スタッフ

島ノ江 千里（教授）ほか

### 2. 研究テーマ

「薬物治療の個別化・適正化を目的とした疫学的手法を用いた医学/薬学研究」

- 1) 医薬品の有効性および副作用に影響する環境要因（服薬行動・健康教育・医療制度等）、疾患要因（既往症・併用薬剤等）、患者背景（性別・年齢等）、および遺伝的要因の探索
- 2) 生体試料中の疾患予測マーカーの探索、およびバイオマーカー・医薬品などの測定方法の確立
- 3) 安全で適正な薬物療法を支援するシステムやアプリの開発
- 4) レセプト情報、医薬品安全情報などにおける既存のビッグデータを用いた疫学研究

### 3. 修得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
  - ・臨床研究（試験）を実施/管理能力（法令、品質管理、実施体制の整備等）
  - ・薬物療法における全般的な知識（作用機序、体内動態、薬物相互作用、安全性など）
  - ・先行研究などの科学的根拠に基づく薬物療法の有効性・安全性の予測、評価、判断能力
- (2) 技術
  - ・疫学的手法を用いた臨床研究（試験）の立案、研究デザイン、ビッグデータ解析（SAS等）
  - ・高度医療機関における薬物療法管理
  - ・コホート研究（罹患調査）、臨床研究における研究統括者としての実施、管理、解析等

### 4. 指導方針・目標

医薬品と薬物療法についての幅広い基礎知識を身につけ、臨床研究（試験）を通して将来の薬物療法に貢献できる人材の育成を目標とし、臨床研究（試験）の実施に必要な実践的能力や技術を修得するための指導を行います。具体的には、実臨床の課題解決に向けて自身のテーマを設定し、研究実施に関する課題解決に必要なアプローチを考える力と技術を養い、研究成果を実臨床でどのように活かしていくことまでを考えられる応用力を身につけます。

また、薬剤師以外の様々なバックグラウンドを持つ“臨床研究(試験)”を実施する研究者、および臨床家についても、データを科学的に評価するための「疫学的手法」を修得し、疾病メカニズムの解明・治療法・予防法に関する成果を創出できるように指導します。

薬剤師免許の取得者については、自身の研究テーマを深めるために、薬学部（6年制）が行っている臨床実習に準じた業務の中で、診療科へのカンファや横断的診療班への参加、および関連する臨床業務などを当院で行うこともできます。

### 5. 問い合わせ・連絡先

島ノ江 教授：[chisasos@cc.saga-u.ac.jp](mailto:chisasos@cc.saga-u.ac.jp)

TEL直通 0952-34-3161（内線 3161）

病棟1階 薬剤部内 薬剤部長室

事務室：TEL直通 0952-34-3164（内線 3164）

## 統合基礎看護学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

基礎看護学領域 坂本 貴子（准教授）、古島 智恵（准教授）、柴山 薫（助教）

### 2. 研究テーマ

基礎看護学

主たる研究分野

- (1) 看護管理者の能力に関する研究
- (2) 看護における人材育成・人材管理に関する研究
- (3) 看護技術の効果・開発についての研究
- (4) 患者教育、消化器疾患に関する研究
- (5) 動機づけに関する研究

### 3. 修得可能な知識・技術

基礎看護学

各人の研究テーマに沿って、先行文献のクリティークおよび分析方法を修得する。  
各人の研究テーマに沿って、研究を遂行し科学論文としてまとめる手法を修得する。

### 4. 指導方針・目標

研究テーマにおいて、看護学の発展に寄与出来るような研究能力を身につける。

### 6. 問い合わせ・連絡先

基礎看護学領域 坂本 貴子 准教授：[sakamo15@cc.saga-u.ac.jp](mailto:sakamo15@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL&FAX 直通 0952-34-2533（内線 2533）  
部屋番号 5306

## 統合基礎看護学講座

### 1. 研究・教育スタッフ

精神看護学領域	藤野 成美（教授）、藤本 裕二（講師）
在宅看護学領域	福山 由美（准教授）、古野 貴臣（講師）
臨床心理学領域	村久保 雅孝（准教授）

### 2. 研究テーマ

- (1) 精神看護に関する研究
- (2) 在宅医療・看護に関する研究
- (3) カウンセリングないし心理療法に関する実践的研究

### 3. 修得可能な知識・技術

それぞれの研究テーマに沿って、先行研究を参考に科学研究論文としてまとめる過程を修得する。

### 4. 指導方針・目標

少子高齢化社会における看護学の発展に寄与できるよう、研究手法を身につける。

### 6. 問い合わせ・連絡先

精神看護学領域に関しては、

藤野成美教授：[fujinon@cc.saga-u.ac.jp](mailto:fujinon@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2564（内線 2564）

部屋番号 5606

在宅看護学領域に関しては、

福山由美准教授：[yumifuku@cc.saga-u.ac.jp](mailto:yumifuku@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2562（内線 2562）

部屋番号 5301

研究室ホームページ <http://www.communityhealth.med.saga-u.ac.jp/>

臨床心理学領域に関しては、

村久保雅孝准教授：[murakubo@cc.saga-u.ac.jp](mailto:murakubo@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2508（内線 2508）

部屋番号 5604

## 生涯発達看護学講座 成人・老年看護学

### 1. 研究・教育スタッフ

急性期看護学領域 古賀 明美（教授）、武富 由美子（准教授）、川久保 愛（助教）  
慢性期看護学領域 山田 春奈（助教）  
老年看護学領域

### 2. 研究テーマ

成人期にある患者と家族や、要介護高齢者と家族の療養生活とケアについて研究を行っている。また、各対象者の価値観や信念、生活習慣、生活体験に着目したテーマについて研究を行っている。

- (1) 重症患者の睡眠に関する研究（古賀・武富・川久保・山田）
- (2) 糖尿病コーディネーター看護師を活用した地域医療連携の構築に関する研究（古賀）
- (3) がん患者遺族の心的外傷後成長に関する研究（武富）
- (4) がん相談支援に関する研究（武富）
- (5) 下降期にある慢性肝疾患患者のセルフケアに関する研究（川久保）
- (6) プレホスピタルケアに従事する看護師のストレスに関する研究（山田・川久保・武富・古賀）
- (7) 急性期脳卒中患者の口腔衛生状態に関する研究（山田・古賀）
- (8) Postintensive care syndrome : PICS および PICS-Family に関する研究（武富・古賀）

### 3. 修得可能な知識・技術

成人期・老年期にある患者および家族を多角的に理解し支援するための看護に関する理論と実践を探究することを目的として、①関連する種々の問題を解決するための研究方法を修得する、②国内外の研究論文を毎週定期的に抄読することにより、看護における最先端の研究内容を把握できるようになるとともに、科学的な視点で論文を批評できる、③各研究テーマにそって的確に研究を遂行し、結果をもとに正しく科学論文を作成する能力の修得を目指す。

### 4. 指導方針・目標

看護は実践する科学であるという前提のもとに、教育・研究の指導を行っている。特に研究面においては、研究の面白さを知り、意欲的に研究を実践するための基礎能力を養うことを目標としている。また、個々の院生の興味・関心を高めるために、研究テーマの選択と方法においてはできるだけ自主性を持たせるようにしている。成人・老年看護学は、教員全体による研究検討会を定期的に行うことによって個々の研究体制を支援しており、指導教員による個別で密な研究指導と相まって、世界に発信できるような一流の研究を行える研究環境（指導体制）作りを目指している。各分野、教員ごとに研究の対象者や対象疾患、テーマは異なるが、共通しているのは、①成果が看護の実践に還元できる、②現在の看護学に即した内容であること（update 可能なものであること）、③世界的なレベルであり得ること、の観点で研究テーマを設定していることである。

### 5. 問い合わせ・連絡先

古賀明美教授：[kogaake@cc.saga-u.ac.jp](mailto:kogaake@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-2561  
部屋番号 5401

武富由美子准教授：[sp7014@cc.saga-u.ac.jp](mailto:sp7014@cc.saga-u.ac.jp)  
TEL 直通 0952-34-2542  
部屋番号 5404

## 生涯発達看護学講座 母性看護学・助産学領域

## 1. 研究・教育スタッフ

田中 奈美（教授）、中野 理佳（准教授）、 榊原 愛（助教）

## 2. 研究テーマ

生涯を通じた女性の健康支援（well-being、子育て支援 他）、母性看護学・助産学教育に関する研究に取り組んでいます。

## (1) 周産期ケアに関する研究

- ・妊産褥婦の排尿ケアに関する研究（中野）
- ・産後女性の腱鞘炎に関する研究（中野）
- ・産前産後のオンライン相談・両親学級（中野）
- ・周産期の女性とスポーツ/運動プログラム（榊原）
- ・女性アスリート支援（榊原）
- ・妊娠期の禁煙に関する研究（田中）
- ・産褥早期の睡眠・覚醒リズムに関する縦断研究（田中）
- ・乳児を育てる母親の well-being に関する研究（田中）
- ・高齢初産婦のストレス生体反応に関する研究（田中）
- ・母親役割獲得過程に抱く育児ストレスに関する研究（田中）
- ・携帯電話モバイルを活用した妊婦用禁煙支援プログラム開発（田中）

## (2) 母性看護学・助産学教育に関する研究

- ・e-learning を活用した実習オリエンテーション（榊原・中野）
- ・分娩介助実習の学びを促進させるガイド兼評価表の開発（中野・榊原）
- ・分娩介助法の教育方法に関する研究（中野）
- ・助産基礎教育から継続教育のシームレスな連携（中野）
- ・動画とリフレクションを活用した分娩介助教育の効果（中野）

## (3) 管理に関する研究

- ・看護職のワークライフバランスに関する研究（中野）

## 3. 修得可能な知識・技術

生涯を通じた女性の健康問題、周産期女性の健康問題（well-being、子育て支援 他）、母性看護学・助産学教育に関する問題を多角的に理解し、解決するための理論と技術を修得する。

## 4. 指導方針・目標

看護研究は、実践の科学であり看護実践や看護教育の質を高めるために不可欠なものです。ご自身が臨床現場等々で抱く「疑問」が始まりの基盤だと考えています。各々が抱いた「疑問」を学術的に明らかにし、看護実践や教育の場に還元できるような研究を目指します。

研究では、大学院生の主体性と自主性をできる限り尊重するとともに、主および副指導教員からなる複数指導体制の下で大学院生の指導を行います。

## 5. 問い合わせ・連絡先

田中 奈美 教授 : tanakana@cc.saga-u.ac.jp  
TEL 直通 0952-34-2550  
部屋番号 5504

## 生涯発達看護学講座 小児看護学領域

### 1. 研究・教育スタッフ

鈴木 智恵子（教授）、大坪 美由紀（助教）

### 2. 研究テーマ

全ての子どもと家族を対象とし、その発達過程で生じる健康問題の解決のために必要な援助方法を教育・研究に取り組んでいます。

#### (1) 子どもと家族に関する研究

- ・慢性疾患をもつ子どもと家族への援助（鈴木）
- ・看護学生によるアトピー性皮膚炎を予防するためのスキンケアに関する研究（鈴木）
- ・紅茶の香り成分に関する研究（鈴木、大坪）
- ・トランジション（移行期医療）に関する研究（鈴木、大坪）
- ・保育所看護職者における研究（大坪）
- ・小児保健に関する研究（大坪）

#### (2) 遺伝看護（鈴木）

#### (3) 小児看護学教育に関する研究（鈴木、大坪）

#### (4) XR を用いた教育（鈴木、大坪）

#### (5) 災害看護（鈴木）

### 3. 修得可能な知識・技術

小児看護学では、子どもの健康や発達の状況や社会との関係などを理解し、保健医療チームのメンバーとして、子どもと家族の健康増進ができる実践的な小児看護の役割と機能について追及し、問題解決できる理論と技術を修得する。さらに XR を用いた看護教育方法や地域における災害看護について学び、修得できる。

### 4. 指導方針・目標

看護研究は看護実践や看護教育の質を向上するために必要です。研究を通じて看護実践や看護教育にも生かすことができる研究を行っていきます。

研究では、大学院生の主体性、自主性を可能な限り尊重するとともに、指導教員を中心とした個別的な指導を行う。

### 5. 問い合わせ・連絡先

鈴木智恵子 教授：[chiekosu@cc.saga-u.ac.jp](mailto:chiekosu@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2555(内線 2555)

部屋番号 5507

## 生涯発達看護学講座 公衆衛生看護学領域

**1. 研究・教育スタッフ**

山田 小織 (教授)、田口 友美 (助教)

**2. 研究テーマ**

地域保健、公衆衛生看護学及び公衆衛生看護学教育に関する研究に取り組んでいます。

- (1) 地域保健・保健師活動に関する研究
- (2) 公衆衛生看護学に関する研究
- (3) 公衆衛生看護学教育・保健師教育（現任教育を含む）に関する研究

**3. 修得可能な知識・技術**

健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進し、もって人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与する公衆衛生看護活動及びその教育を探求することを目的とし、先行研究を参考にしながら、科学研究論文を作成する過程を修得します。

**4. 指導方針・目標**

大学院生の自主性を尊重するとともに、研究に関する幅広い知識・技術が得られるよう複数指導体制で研究を支援します。ヘルスプロモーションを推進するための公衆衛生看護活動、公衆衛生看護学教育を研究テーマとし、得られた知見については、地域保健や看護学教育の場に還元することを目標とします。

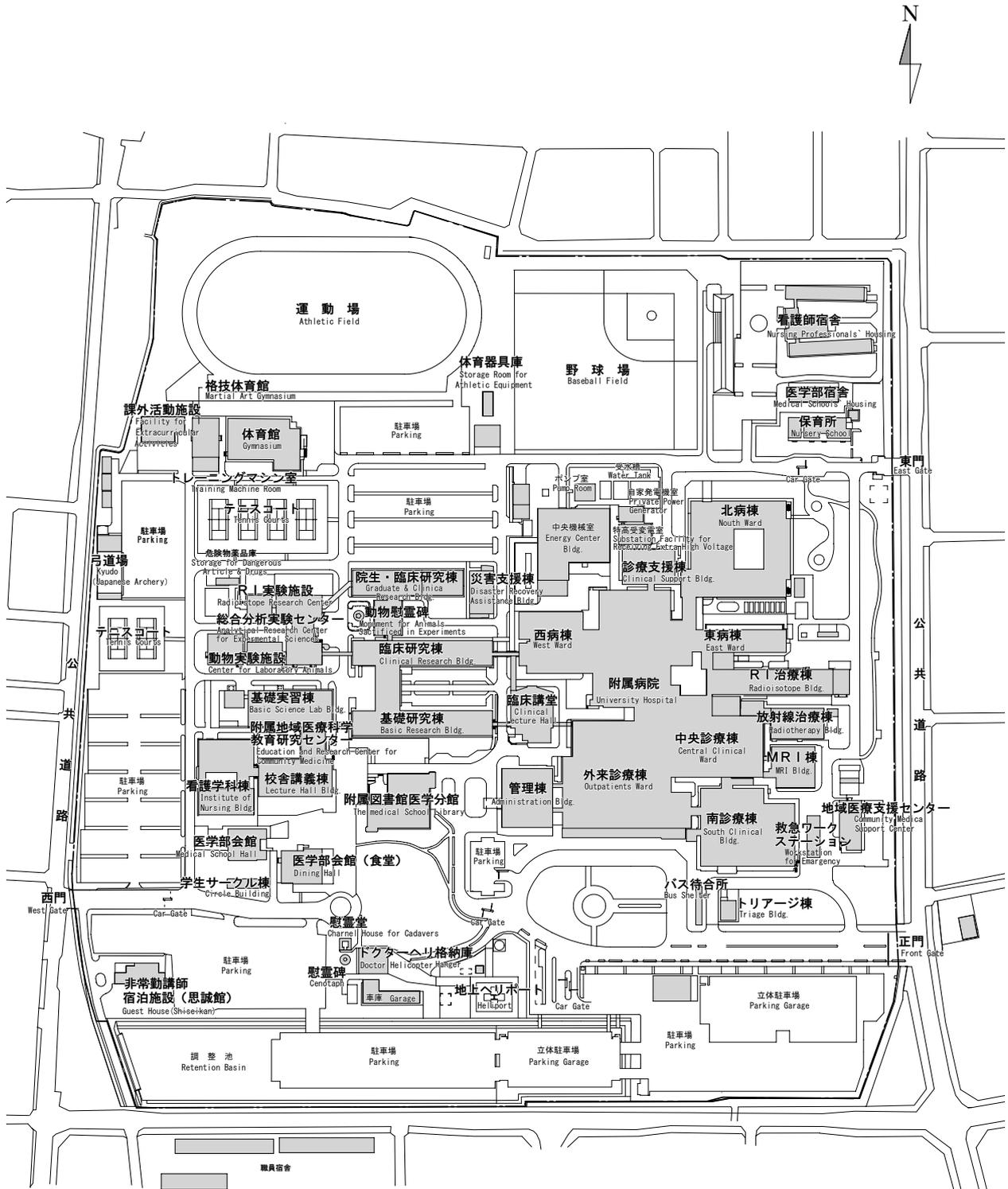
**5. 問い合わせ・連絡先**

山田 小織 教授：[syamada@cc.saga-u.ac.jp](mailto:syamada@cc.saga-u.ac.jp)

TEL 直通 0952-34-2541

部屋番号 5402

# VII 佐賀大学医学部建物配置図



# 院生棟，臨床研究棟，基礎研究棟平面図



分子生命科学



院生棟

分子生命科学



分子生命科学

精神医学

精神医学

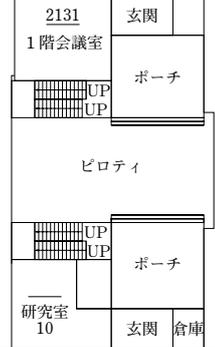
放射線医学



臨床研究棟

精神医学

放射線医学



生体構造機能学

病因病態科学



基礎研究棟

生体構造機能学

病因病態科学

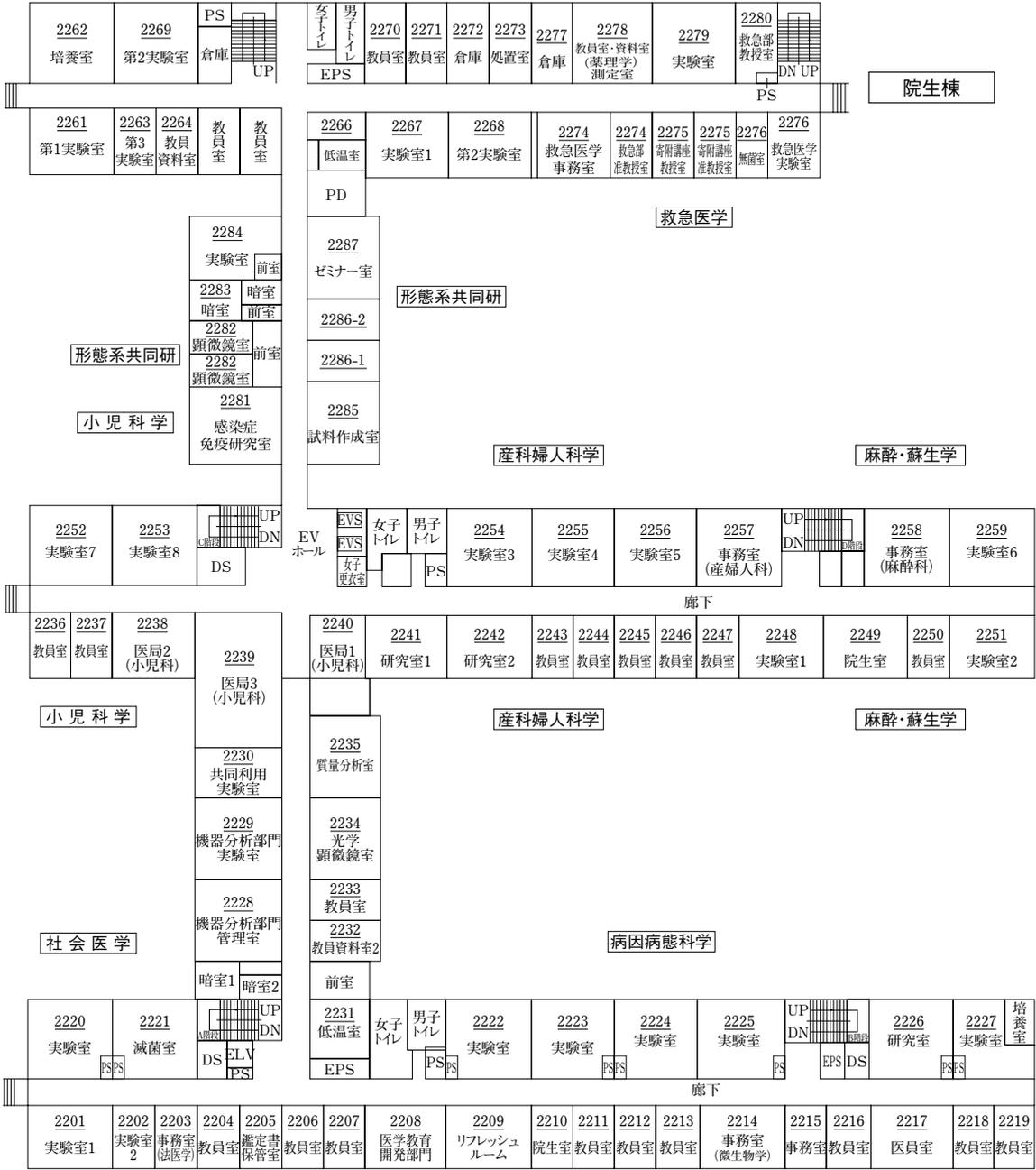
1階



分子生命科学

生体構造機能学

救急医学



社会医学

地域医療科学教育  
研究センター

病因病態科学

2階

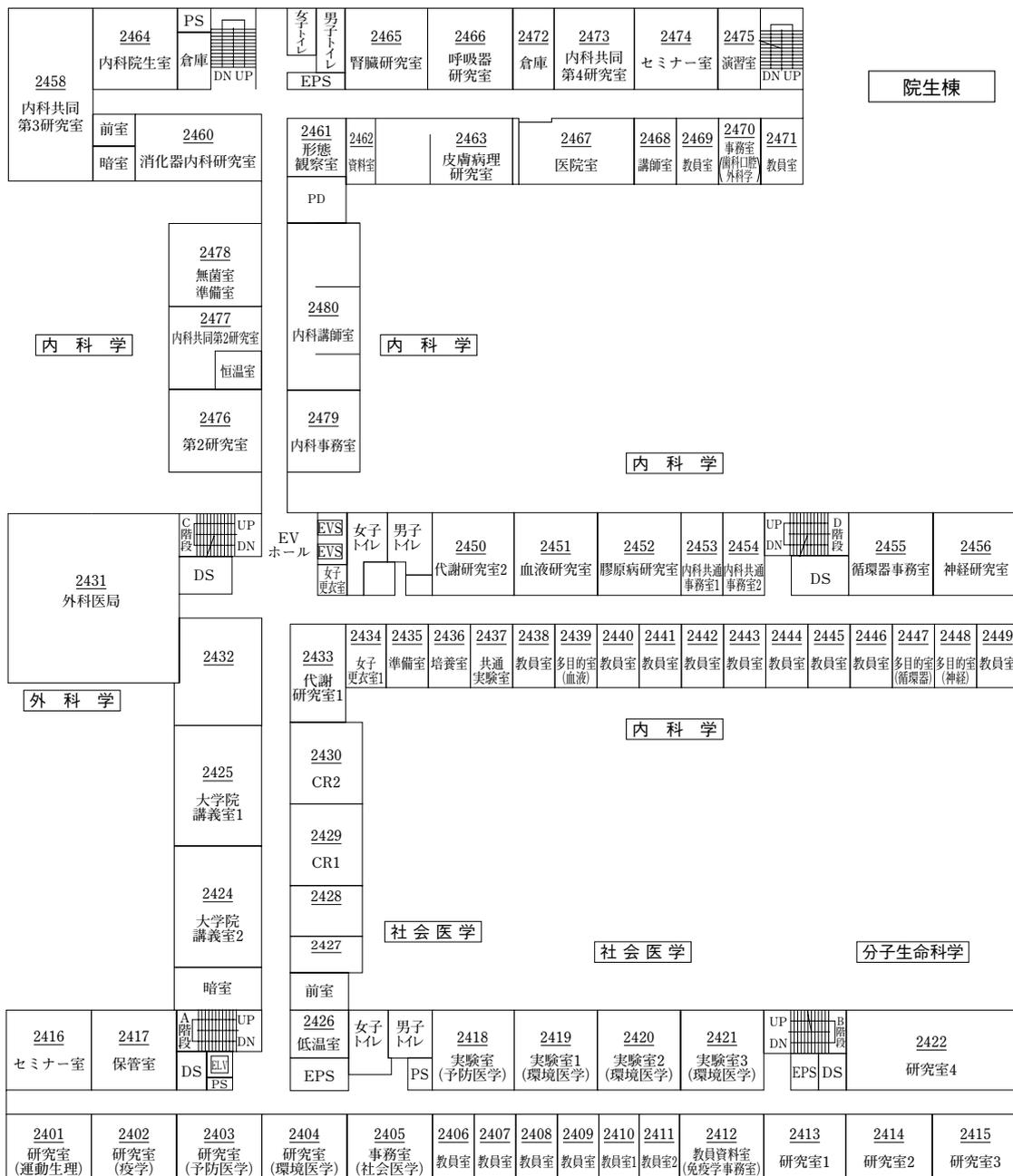




内科学

内科学

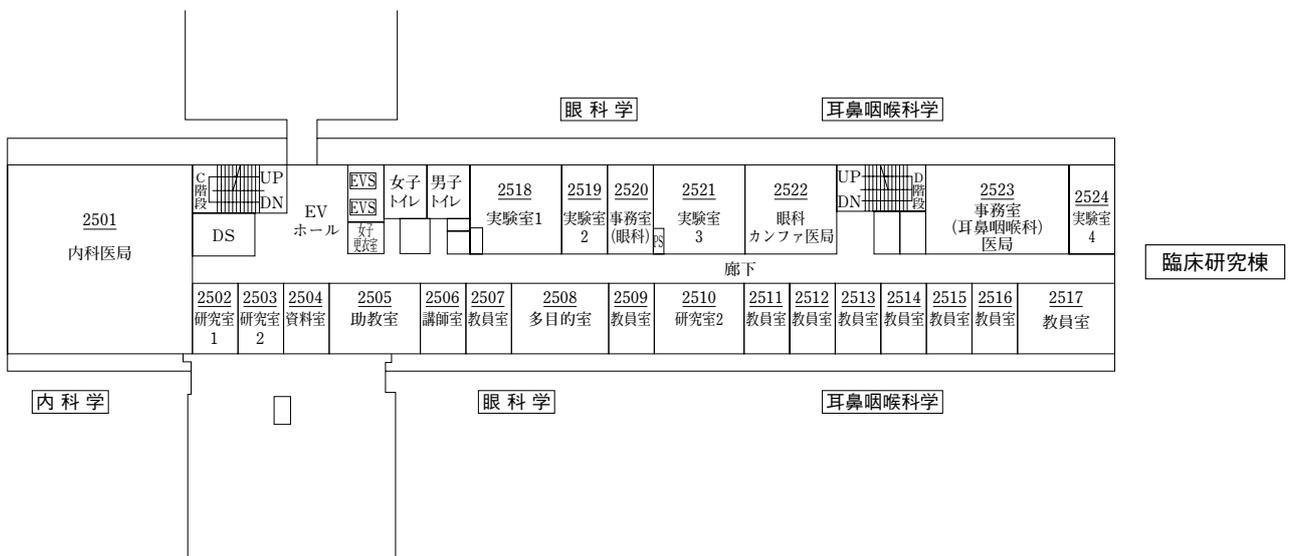
歯科口腔外科学



社会医学

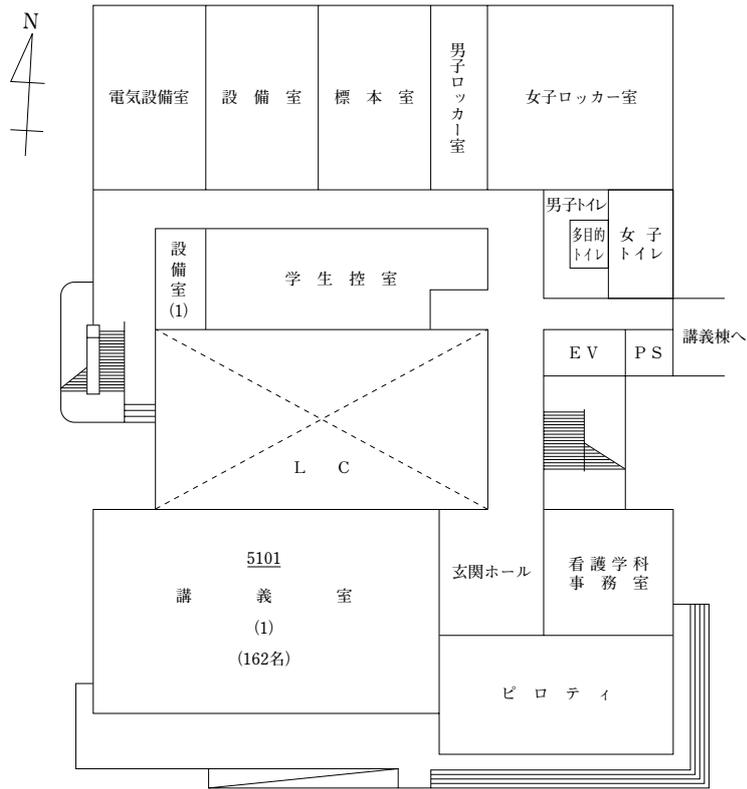
分子生命科学

4階

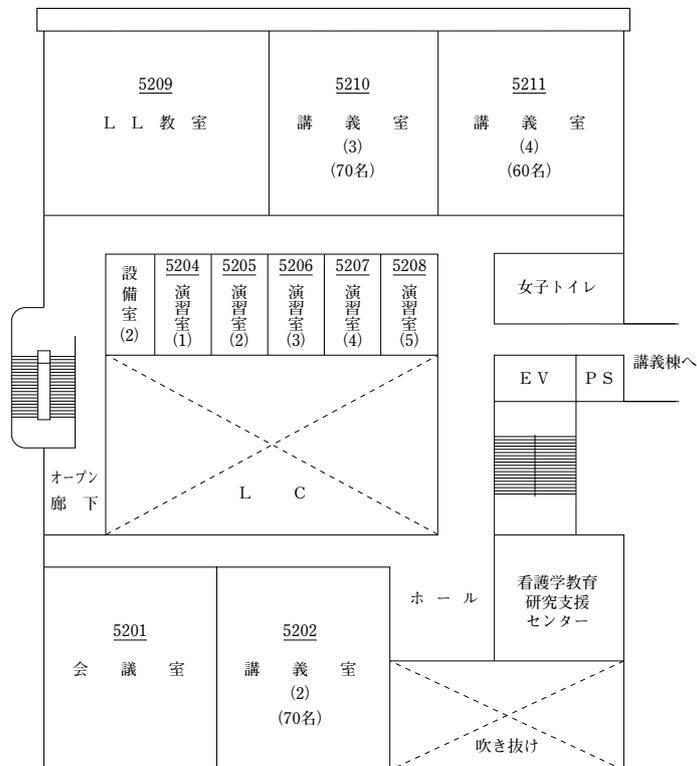


5階

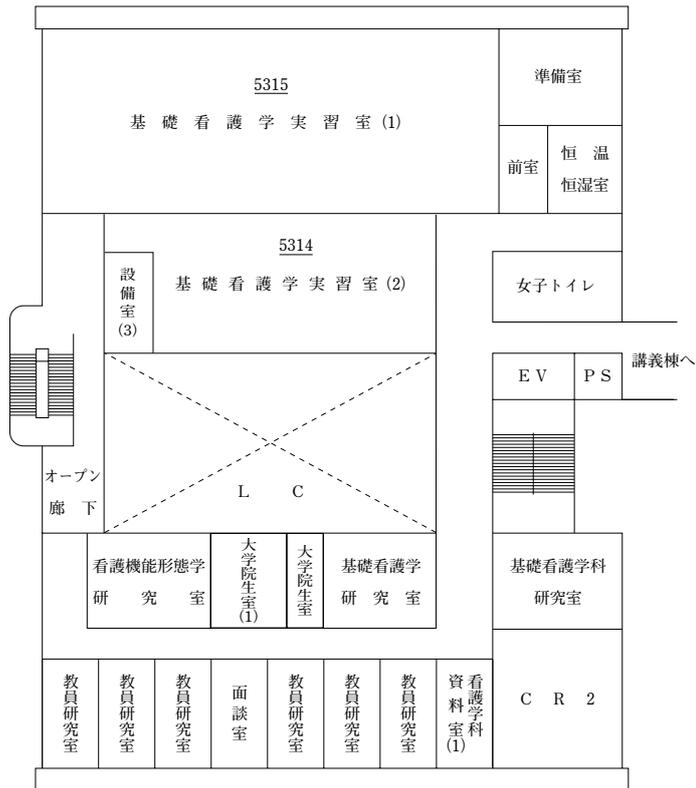
# 看護学科棟平面図



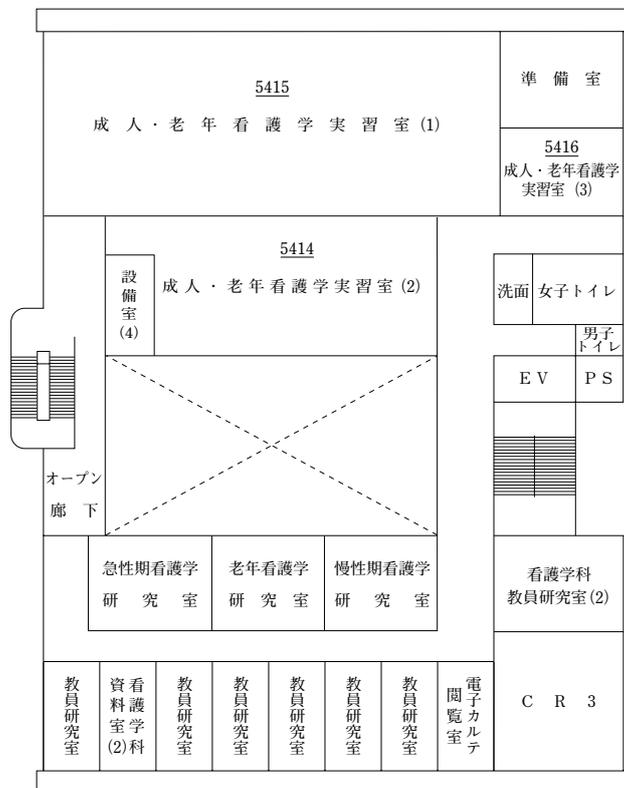
1階



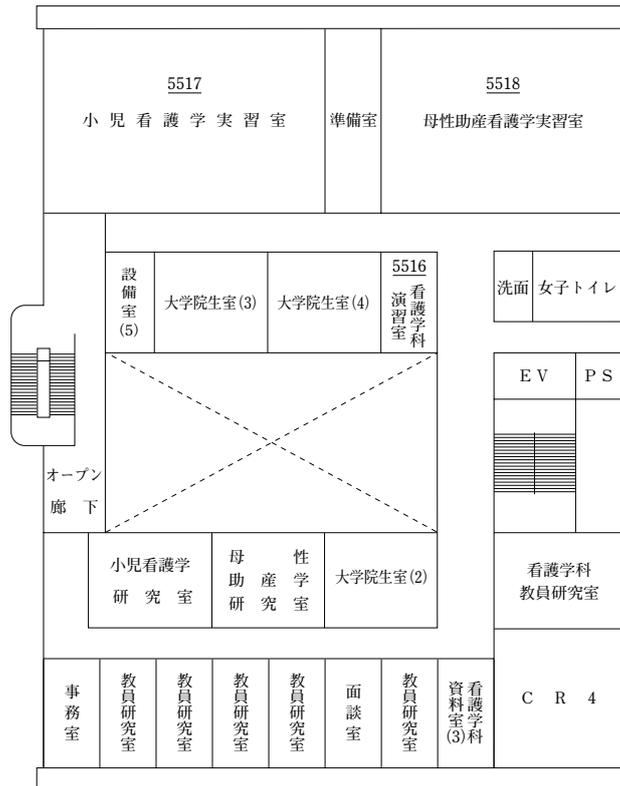
2階



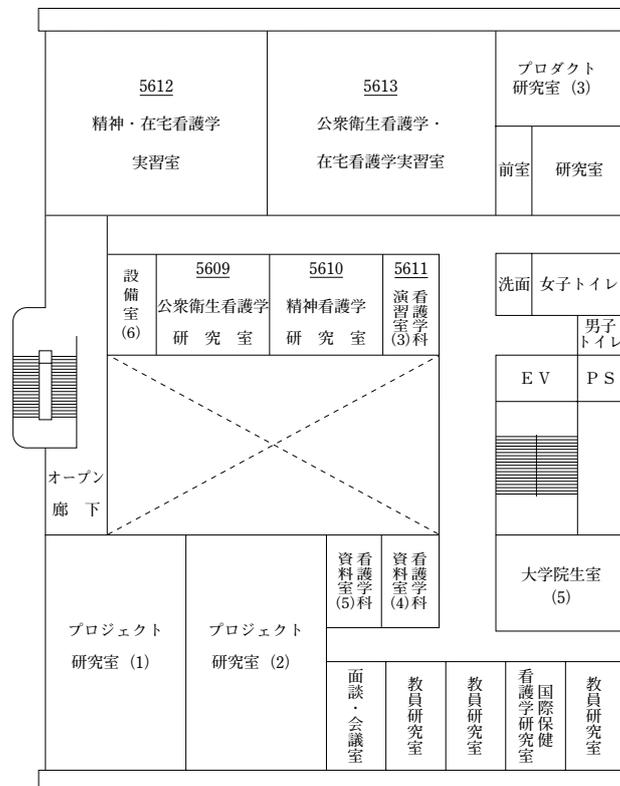
3階



4階

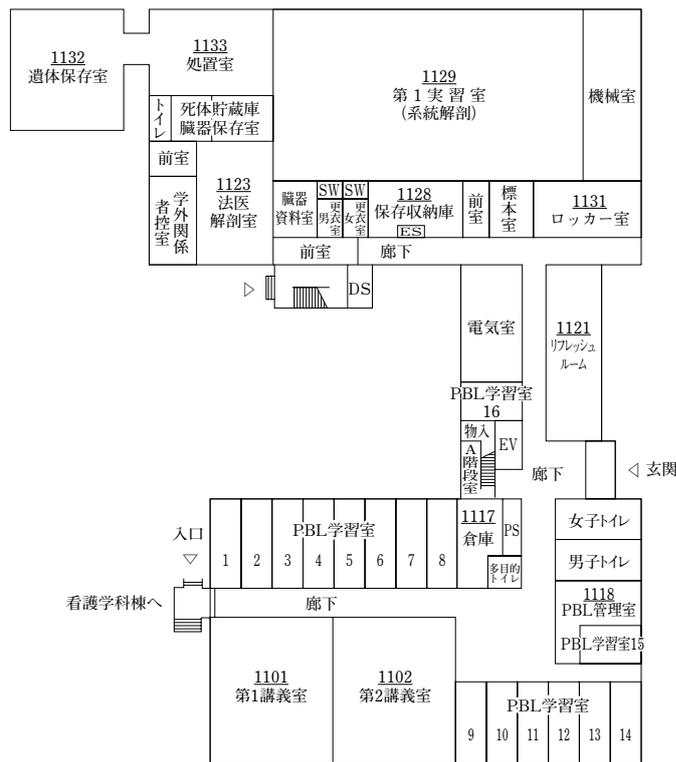


5階

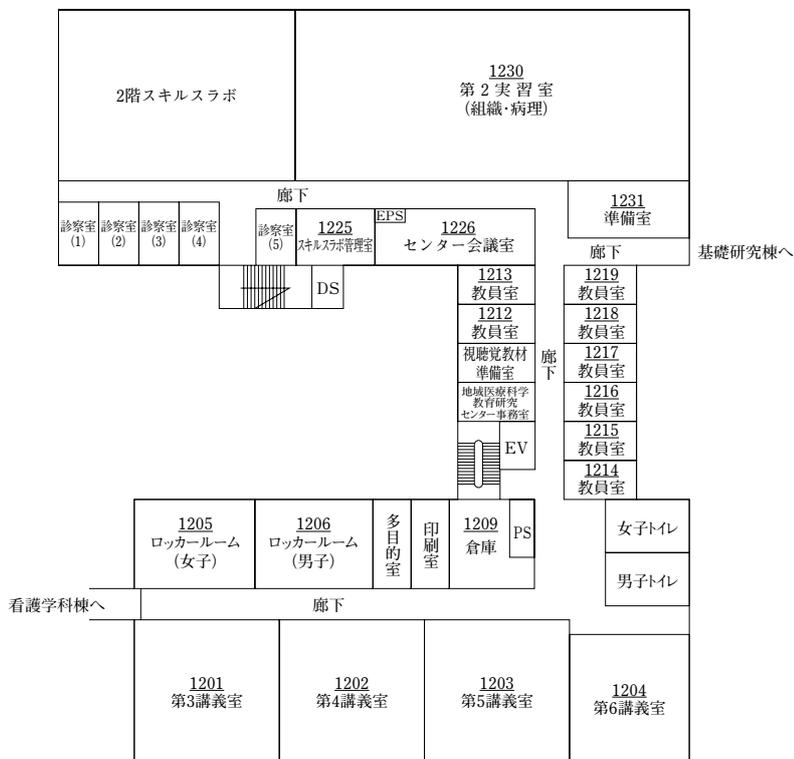


6階

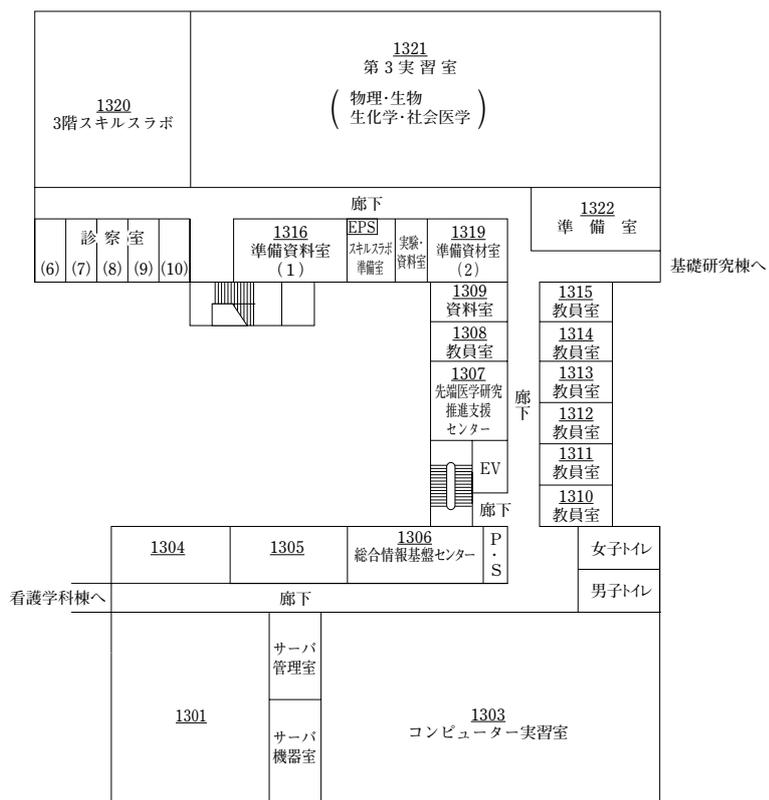
# 講義棟平面図



1階

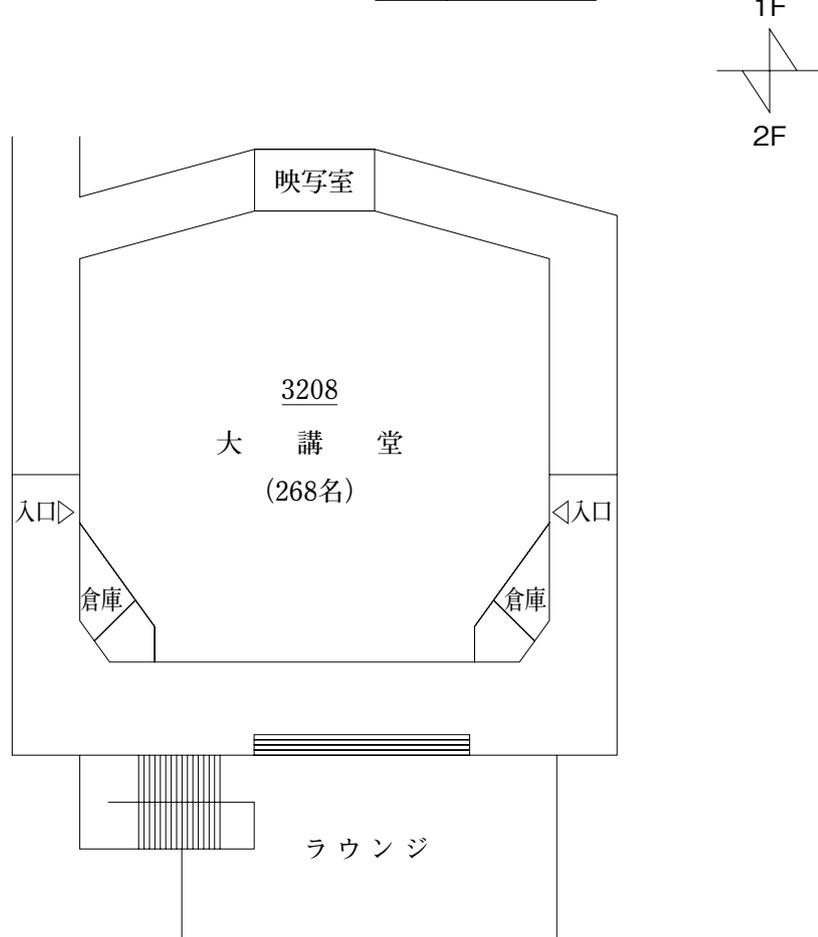
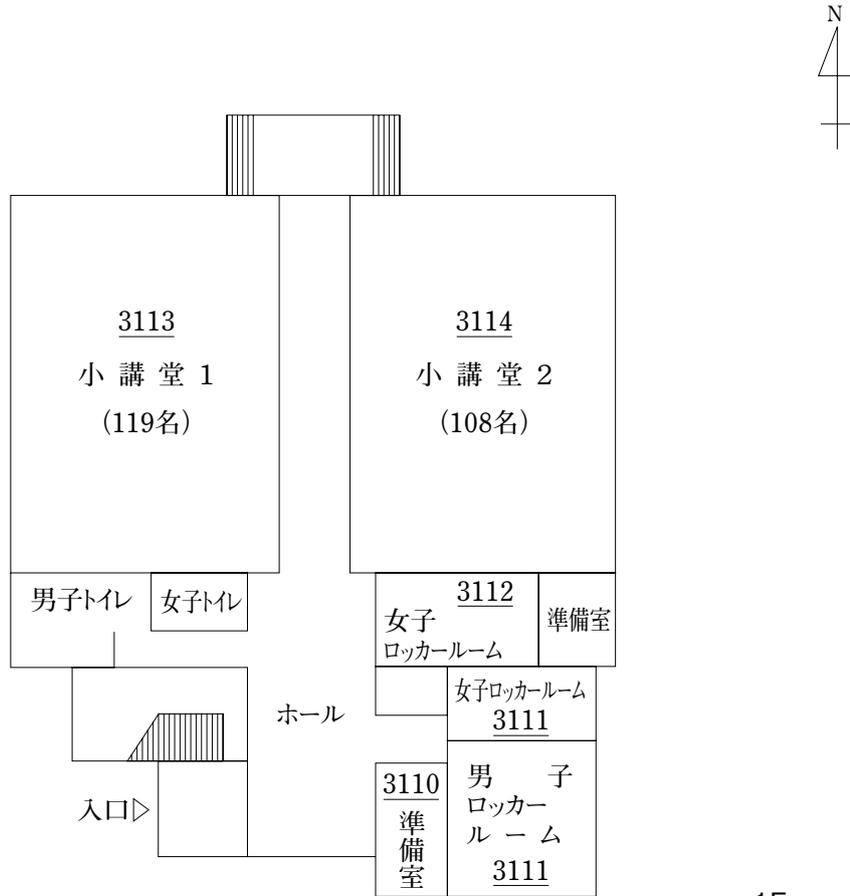


2階



3階

臨床講堂平面図







\*\*\*\*\*

～ 医学系研究科についての情報はこちらから ～

佐賀大学大学院医学系研究科HP

<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>

～ 医学系研究科担当係への連絡はこちらへ ～

佐賀大学医学部学生課大学院教育担当メールアドレス

[gkseii@mail.admin.saga-u.ac.jp](mailto:gkseii@mail.admin.saga-u.ac.jp)

～ 成績・修得単位等の確認はこちらへ ～

教務システム (Live Campus)

<https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp>

\*\*\*\*\*

